

令和3年度 WEBアンケート結果

令和4年3月30日

環境省

1. WEBアンケート

- 目的：除去土壌の再生利用に関する現状の関心や認知度等について、全国的なWEBアンケート調査を、平成30年度以降、毎年実施。
- 実施期間：令和4年2月14日（月）～ 3月1日（火）
- 対象者：20代～70代の男女
 - ✓ 令和3年度回答者：4,613名 ※（福島県以外：3,978名、福島県：635名）
北海道：494名、東北（福島県除く）：488名、関東：506名、中部：508名、近畿：517名、中国：492名、四国：494名、九州・沖縄：479名
 - ※令和3年度で4回目となる本WEBアンケートは、令和3年度からの新規回答者の他に、2年連続（令和2年度、令和3年度）回答者、3年連続（平成31年度、令和2年度、令和3年度）回答者、4年連続（平成30年度、平成31年度、令和2年度、令和3年度）回答者を含んでおり、内訳は以下のとおり。
 - ・新規回答者数：1,659名（福島県以外：1,403名、福島県：256名）
 - ・2年連続回答者数：1,127名（福島県以外：956名、福島県：171名）
 - ・3年連続回答者数：1,676名（福島県以外：1,525名、福島県：151名）
 - ・4年連続回答者数：151名（福島県以外：94名、福島県：57名）
 - ✓ 令和2年度回答者：3,997名 ※（福島県以外：3,466名、福島県：531名）
北海道：440名、東北（福島県除く）：432名、関東：445名、中部：432名、近畿：440名、中国：432名、四国：425名、九州・沖縄：420名
- 質問事項
 - ✓ 令和3年度、令和2年度継続質問事項
Q1～Q16、Q24～Q25
 - ✓ 令和3年度新規質問事項
Q17～Q19、Q20、Q21～Q23

2. WEBアンケート（質問事項一覧）（1/2）

質問番号	質問事項
Q 1	あなたは、除去土壌等が中間貯蔵開始後30年以内に福島県外において最終処分されると法律で定められていることをどの程度ご存知でしたか。
Q 2	あなたは、除去土壌等の福島県外での最終処分の方針について、何で情報を得ましたか(複数回答)。
Q 3	あなたは、除去土壌の再生利用について、その内容をどの程度ご存知でしたか。
Q 4	あなたは、除去土壌の再生利用について、何で情報を得ましたか(複数回答)。
Q 5	あなたは、除去土壌の再生利用について、どの程度関心をお持ちですか。
Q 6	あなたは、除去土壌を再生利用する必要があると思いますか。
Q 7	あなたは、除去土壌の再生利用は安全だと思いますか。
Q 8	あなたは、除去土壌の再生利用を進めることに賛成ですか、それとも反対ですか。
Q 9	除去土壌の再生利用を進める上でどのような条件が整っている必要があると思いますか(複数回答)。
Q10	あなたは、自身のお住まいの地域で除去土壌の再生利用が実施されても良いと思いますか、それともいやだと思いますか。
Q11	自身のお住いの地域で除去土壌の再生利用が実施される上でどのような条件が整っている必要があると思いますか(複数回答)。
Q12	あなたは、除去土壌の再生利用を進めることについて社会的に理解を得ることは可能であると思いますか。
Q13	除去土壌の再生利用を進めることについて社会的に理解を得る上でどのような条件が整っている必要がありますか(複数回答)。

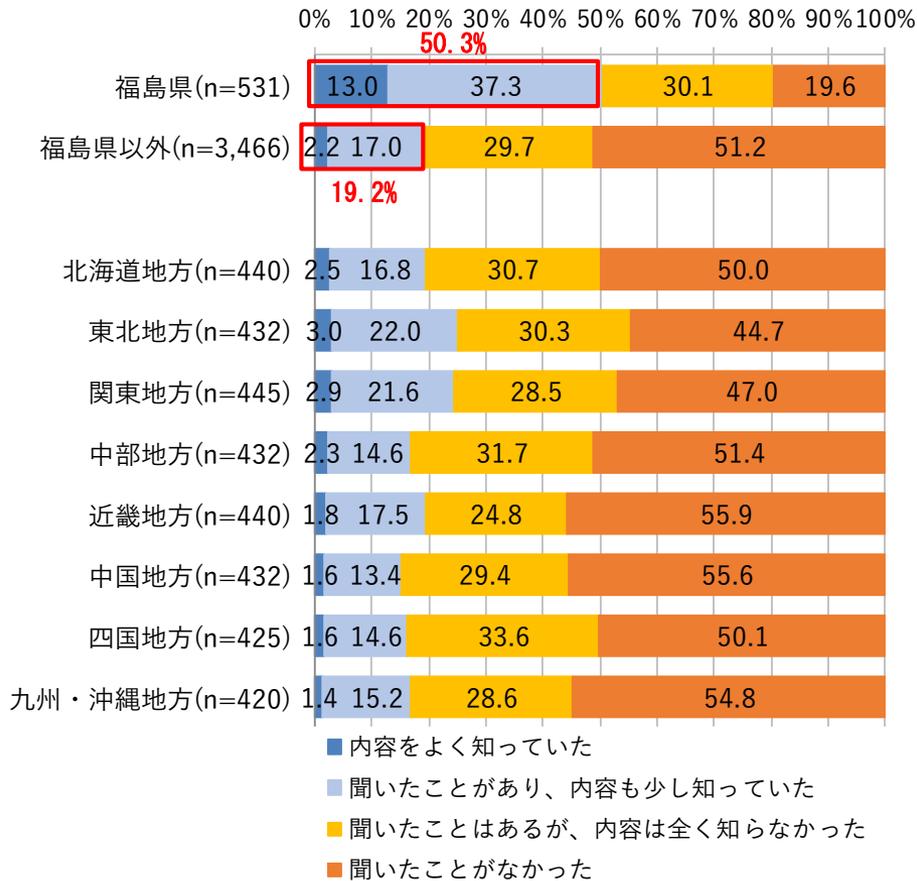
2. WEBアンケート（質問事項一覧）（2/2）

質問番号	質問事項
Q14	あなたは、環境省から除去土壌の再生利用に関するメールニュースやツイッター等SNSでの配信がされる場合、読みたいですか。
Q15	あなたは、どのくらいの頻度でSNSを利用していますか。
Q16	除去土壌の再生利用に関する情報の発信源として信頼できると考えられる機関・媒体をお答えください(複数回答)。
Q17	福島県飯舘村長泥地区では除去土壌再生利用の実証事業を行っています。令和3年7月から一般の方々に対しての現地見学会を開始しました。あなたは、このような見学会が開催されていることを知っていましたか。
Q18	Q17で「知っていた」と答えた方に質問です。見学会の情報は何で得られましたか。
Q19	今後現地見学会が開催された場合、参加したいと思いますか。
Q20	環境省では福島の復興に向けた理解醸成の取組の一つとして、中間貯蔵施設に搬入され分別した土壌を鉢植えに用い、観葉植物を植えて大臣室等に設置しています。2021年7月から首相官邸、復興庁、自民党及び公明党本部に、さらに2021年12月から環境省関連5施設（関東地方環境事務所、東北地方環境事務所、環境調査研修所、新宿御苑及び国立環境研究所）にも設置しました。あなたはこのことを知っていましたか。
Q21	環境省は再生利用の理解醸成のため、『「福島、その先の環境へ」対話フォーラム』を令和3年5月23日から開始し、すでに3回開催しました。あなたは、対話フォーラムが開催されたことを知っていましたか。
Q22	Q21で「知っていた」と答えた方に質問です。あなたは、当日ご参加、もしくはYouTube配信にてご視聴されましたか。
Q23	YouTubeでは『「福島、その先の環境へ」対話フォーラム』のアーカイブ動画を配信していますが、視聴したいと思いますか。
Q24	除去土壌の再生利用の理解を深めるために、環境省が実施すべきことは何だと思いますか(複数回答)。
Q25	除去土壌の再生利用に関する以下の内容で特に関心のある事項をお答えください(複数回答)。

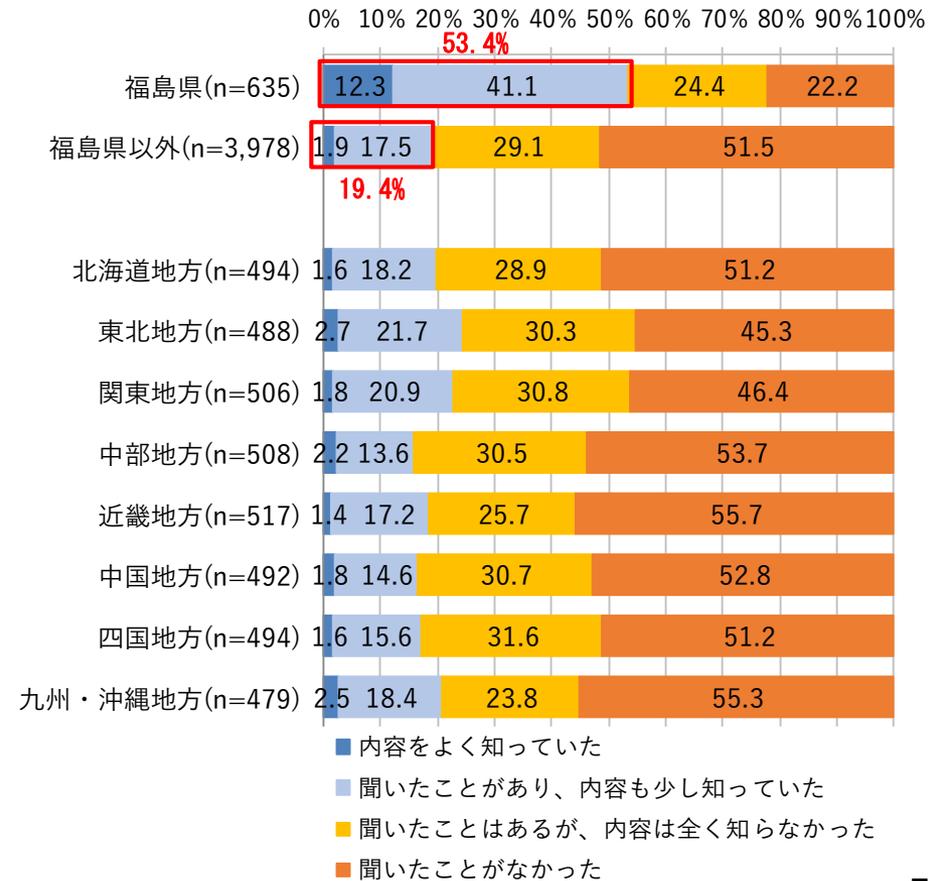
Q1：あなたは、除去土壌等が中間貯蔵開始後30年以内に福島県外において最終処分されると法律で定められていることをどの程度ご存知でしたか。

- 概ね、昨年度と同様の傾向。
- 福島県では「内容をよく知っていた」「聞いたことがあり、内容も少し知っていた」のあわせた回答は約5割、福島県以外では、約2割となっている。

【令和2年度】



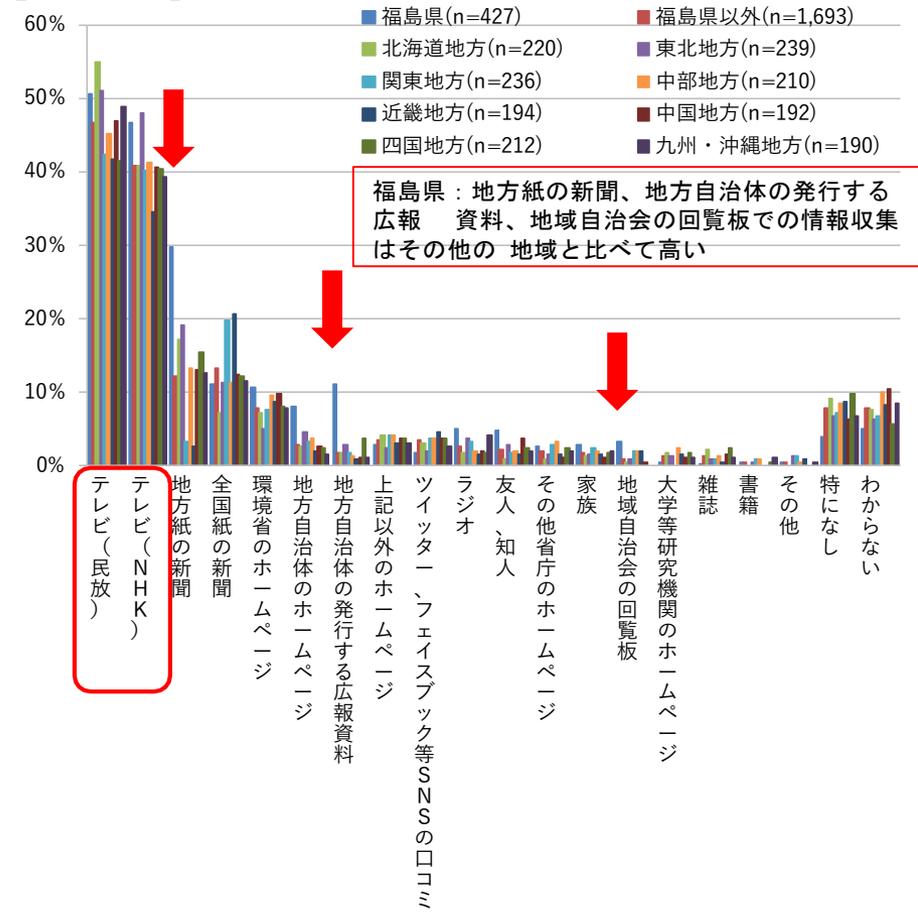
【令和3年度】



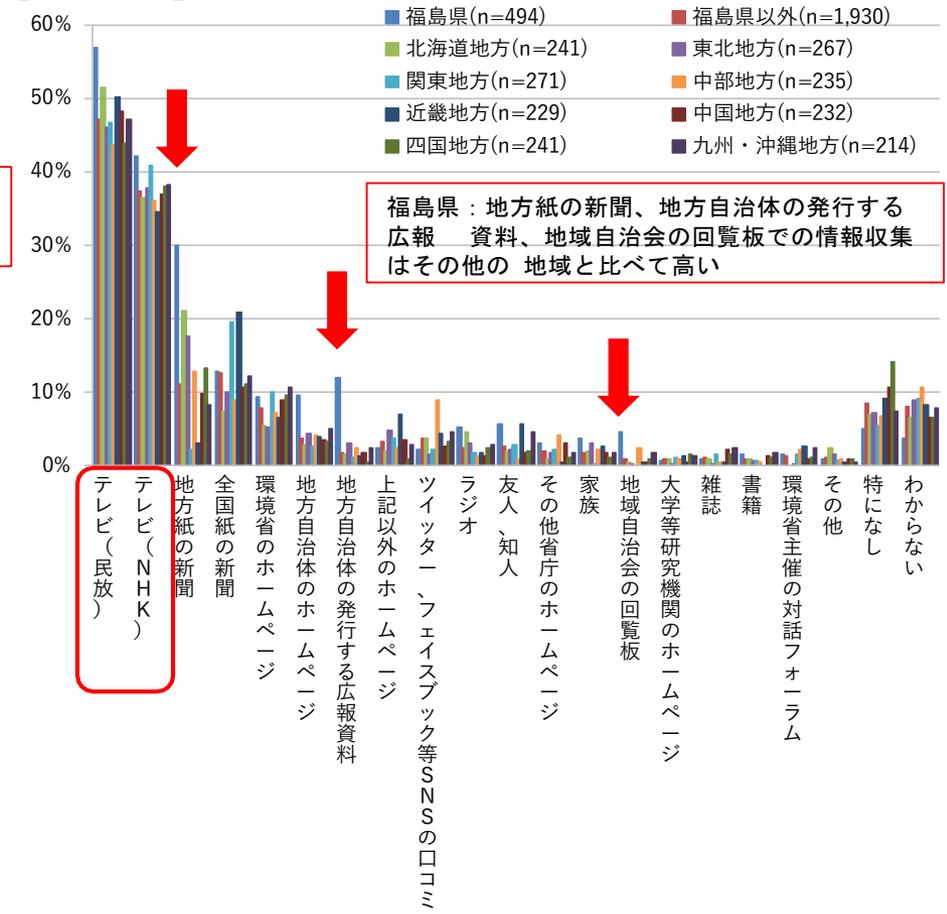
Q2：あなたは、除去土壌等の福島県外での最終処分の方針について、 何で情報を得ましたか。（複数回答）

- 概ね、昨年度と同様の傾向である。
- 情報の入手方法は、全地域においてテレビ（民放・NHK）が多く、福島県ではその地域特有の情報源からの入手も比較的多い。

【令和2年度】



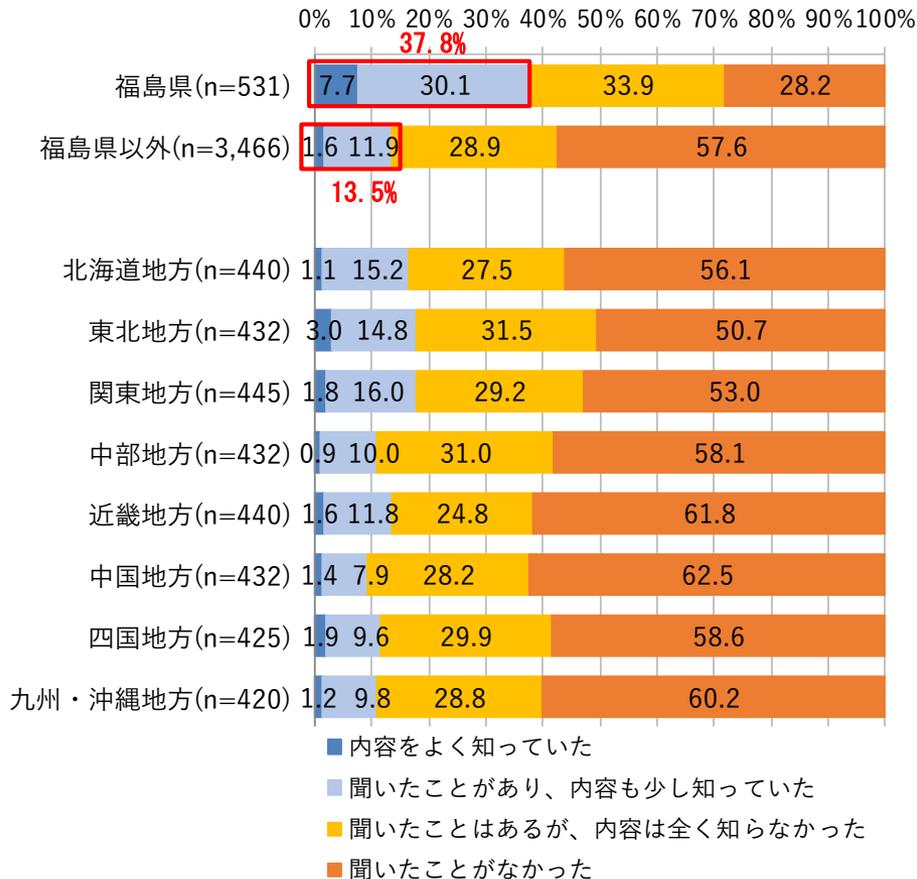
【令和3年度】



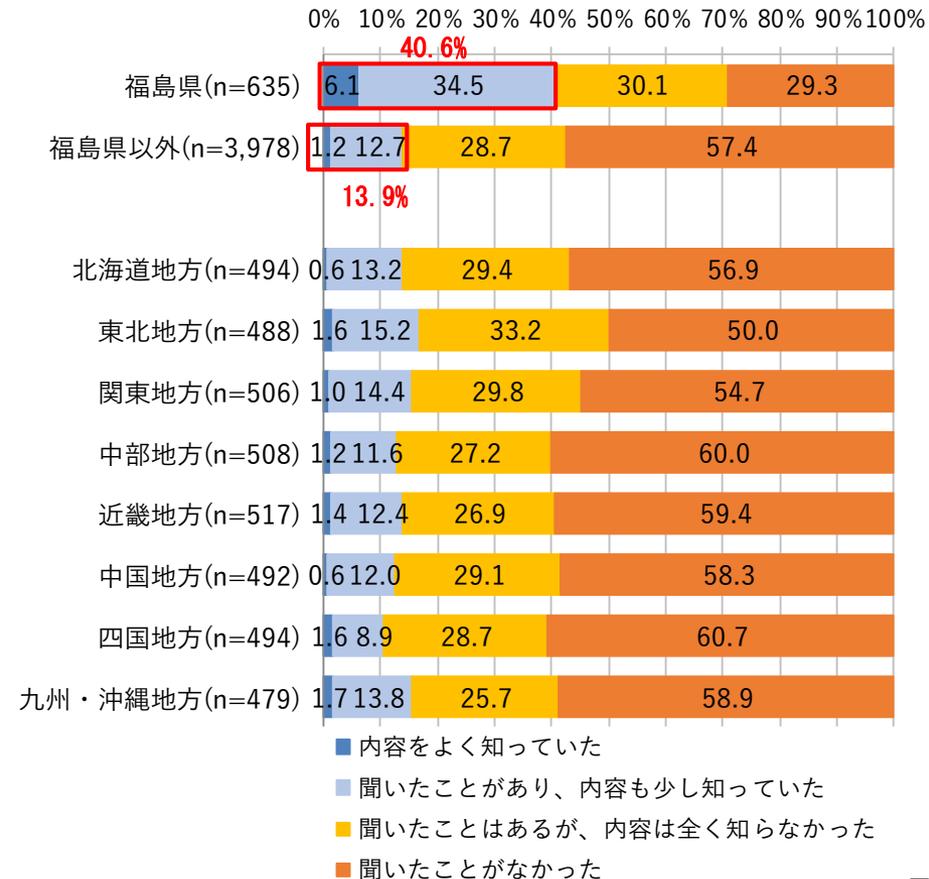
Q3：あなたは、除去土壌の再生利用について、その内容をどの程度ご存知でしたか。

- 概ね、昨年度と同様の傾向。
- 全地域において、除去土壌等の福島県外での最終処分についての認知度（Q1）よりも低い傾向が見られる。

【令和2年度】



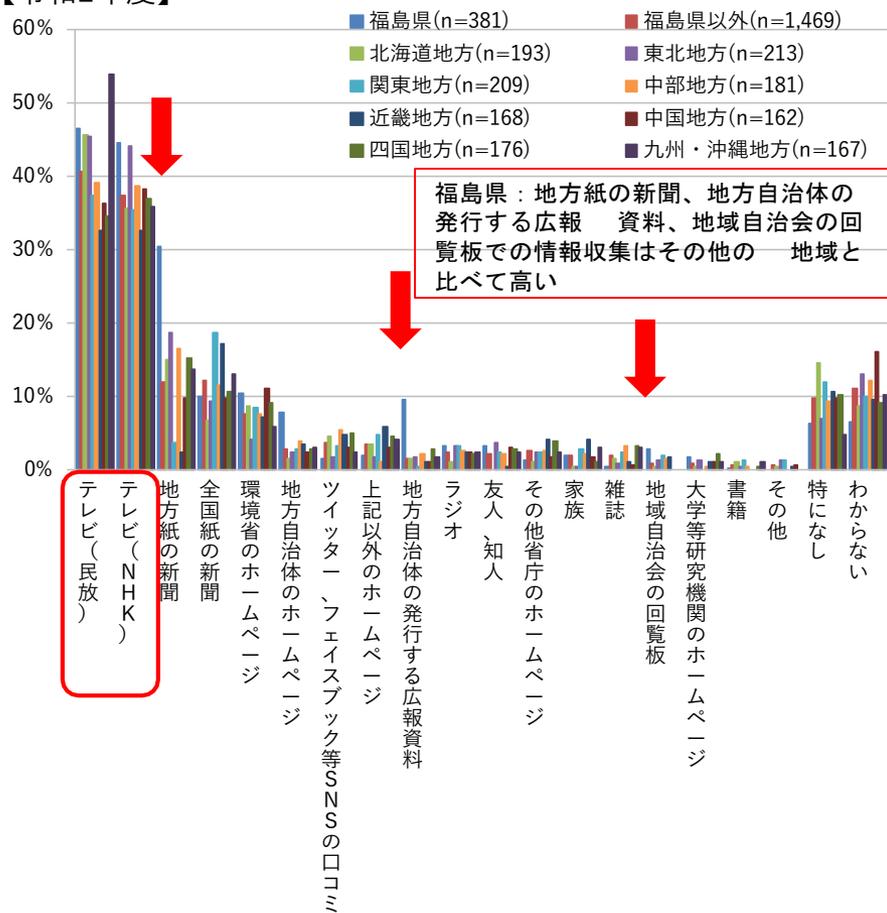
【令和3年度】



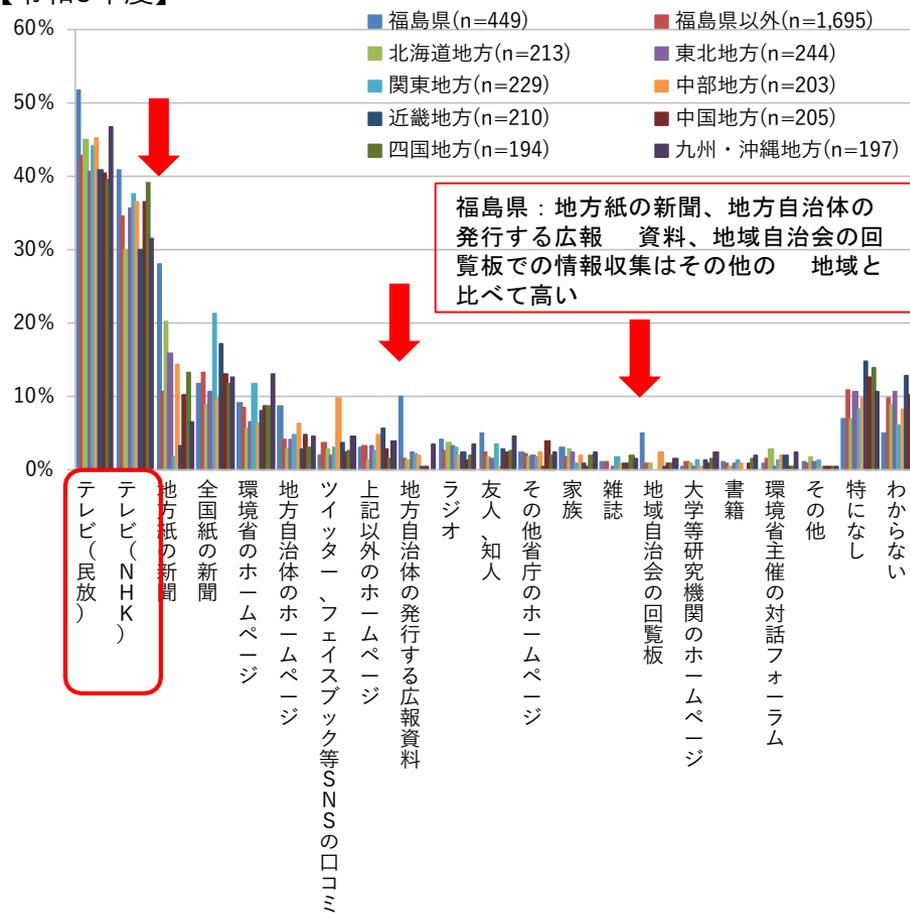
Q4：あなたは、除去土壌の再生利用について、何で情報を得ましたか。（複数回答）

- 概ね、昨年度と同様の傾向。
- 情報の入手方法は、全地域においてテレビ（民放・NHK）が多く、福島県ではその地域特有の情報源からの入手も比較的多い。

【令和2年度】



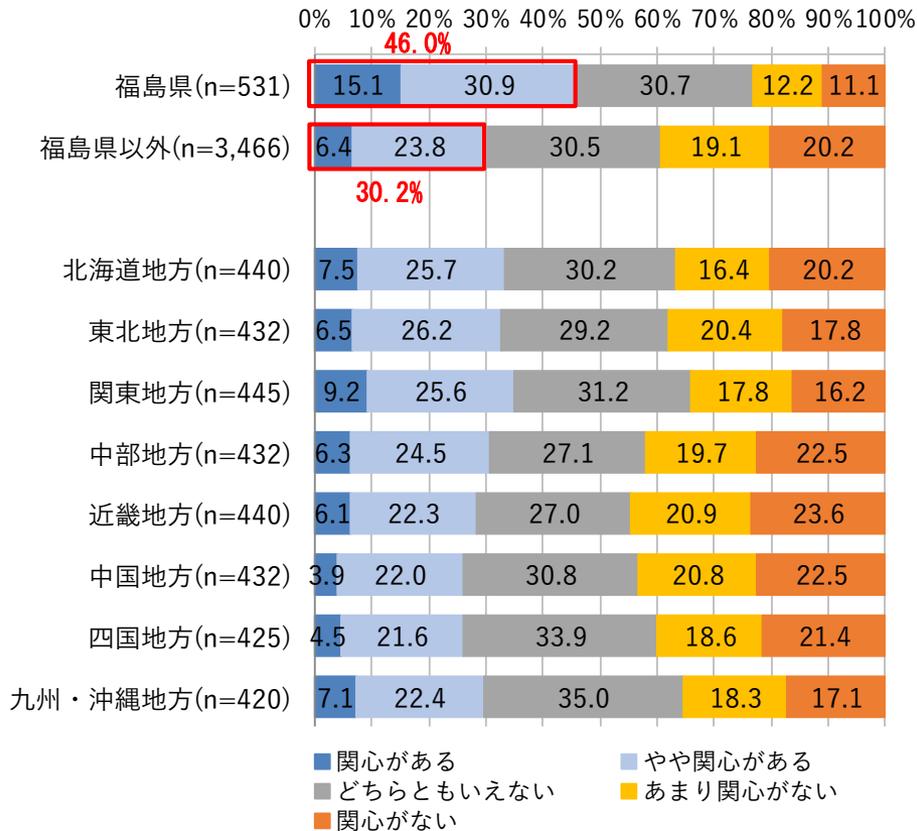
【令和3年度】



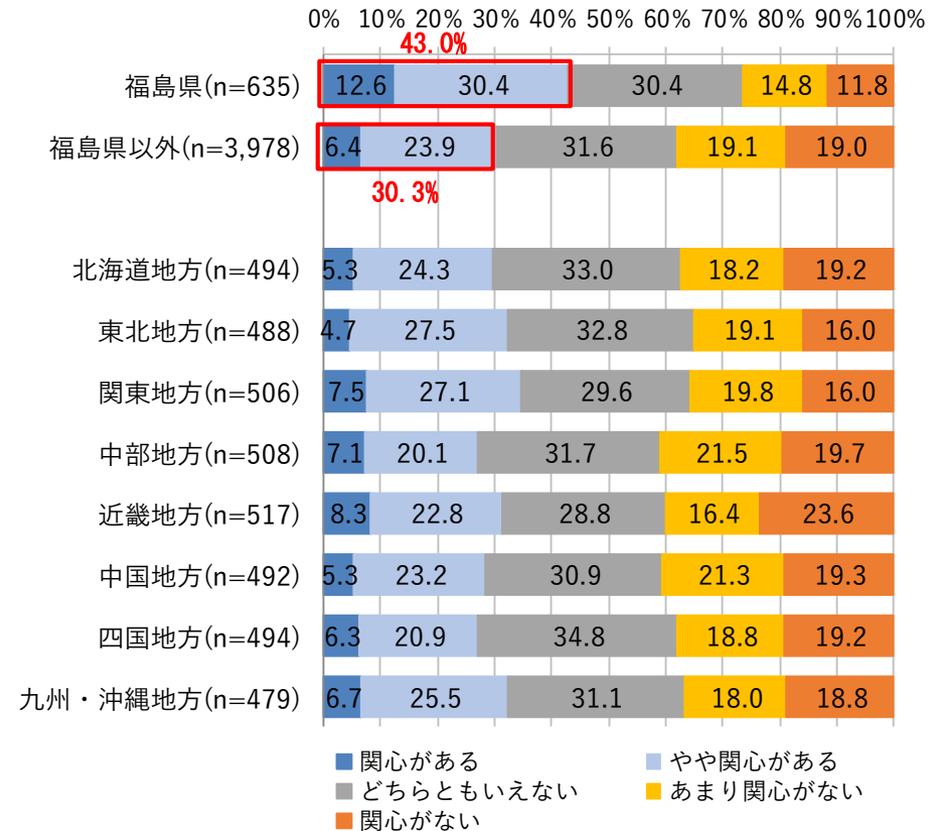
Q5：あなたは、除去土壌の再生利用について、どの程度関心をお持ちですか。

- 昨年度と同様の傾向。
- どの地域も「どちらともいえない」との回答が最も多い。

【令和2年度】



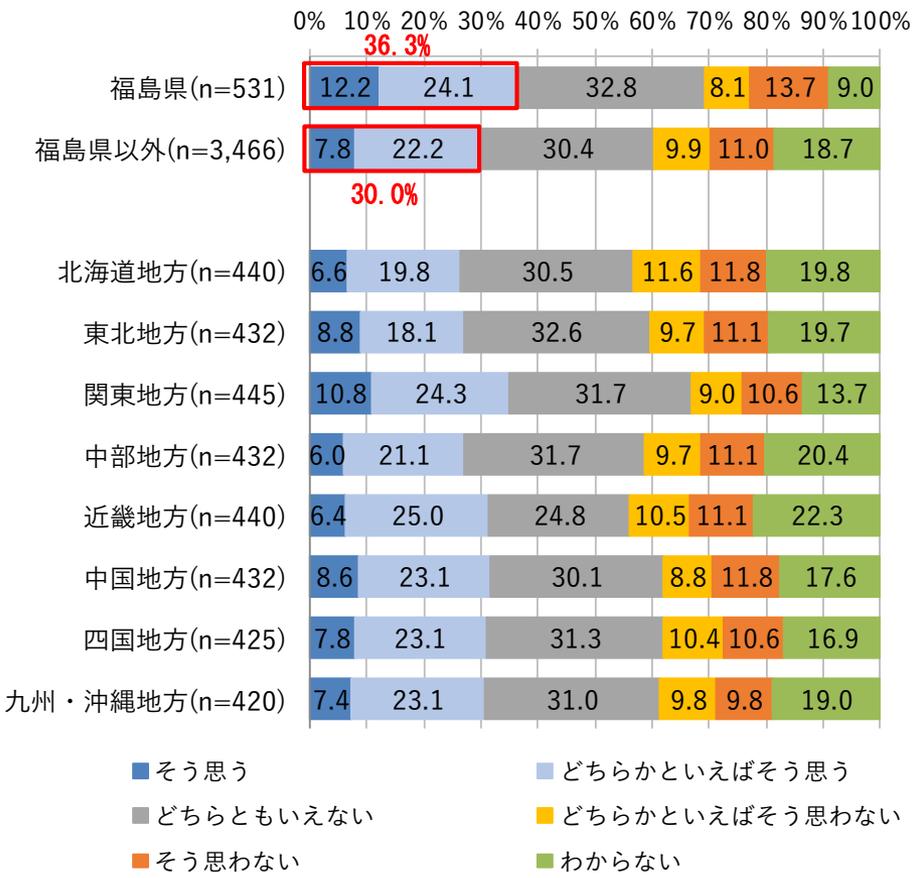
【令和3年度】



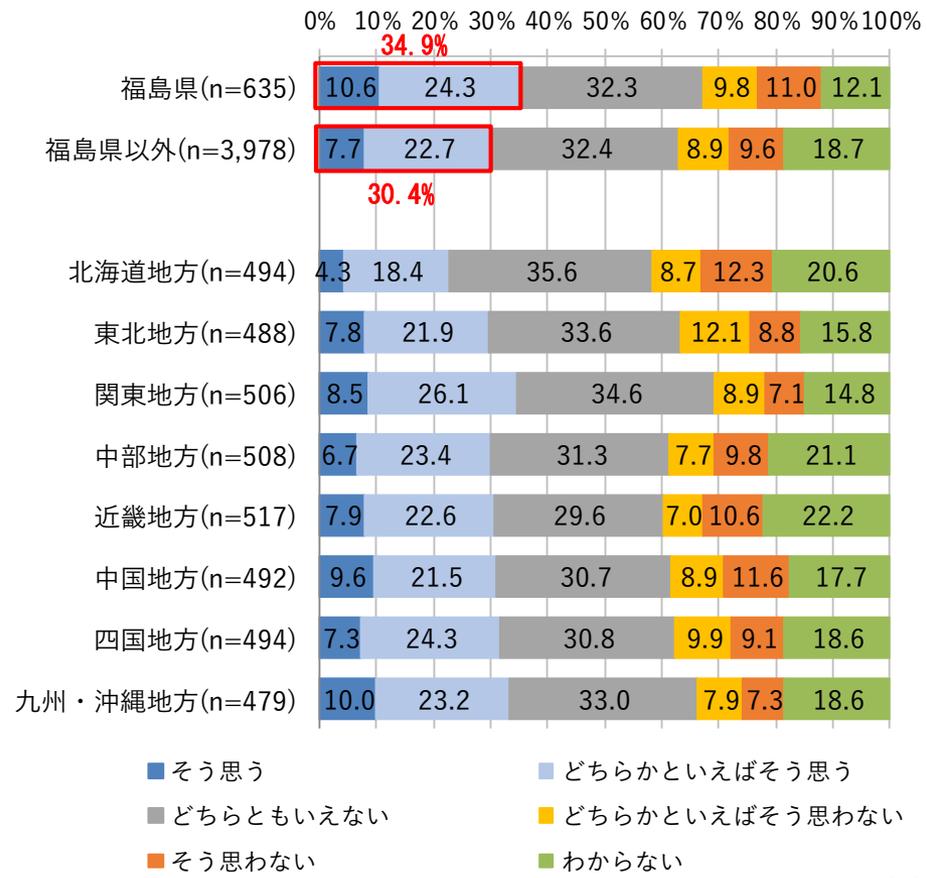
Q6：あなたは、除去土壌を再生利用する必要があると思いますか。

- 概ね、昨年度と同様の傾向である。
- どの地域も、「どちらともいえない」「わからない」との回答が5割前後を占めている。

【令和2年度】



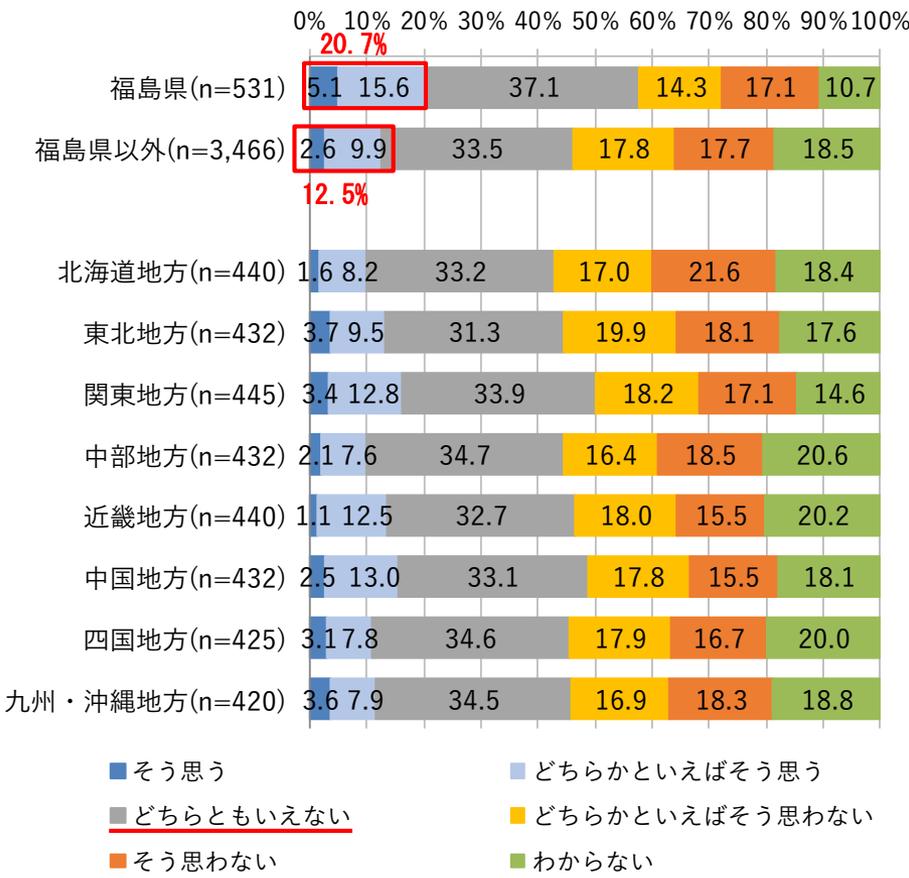
【令和3年度】



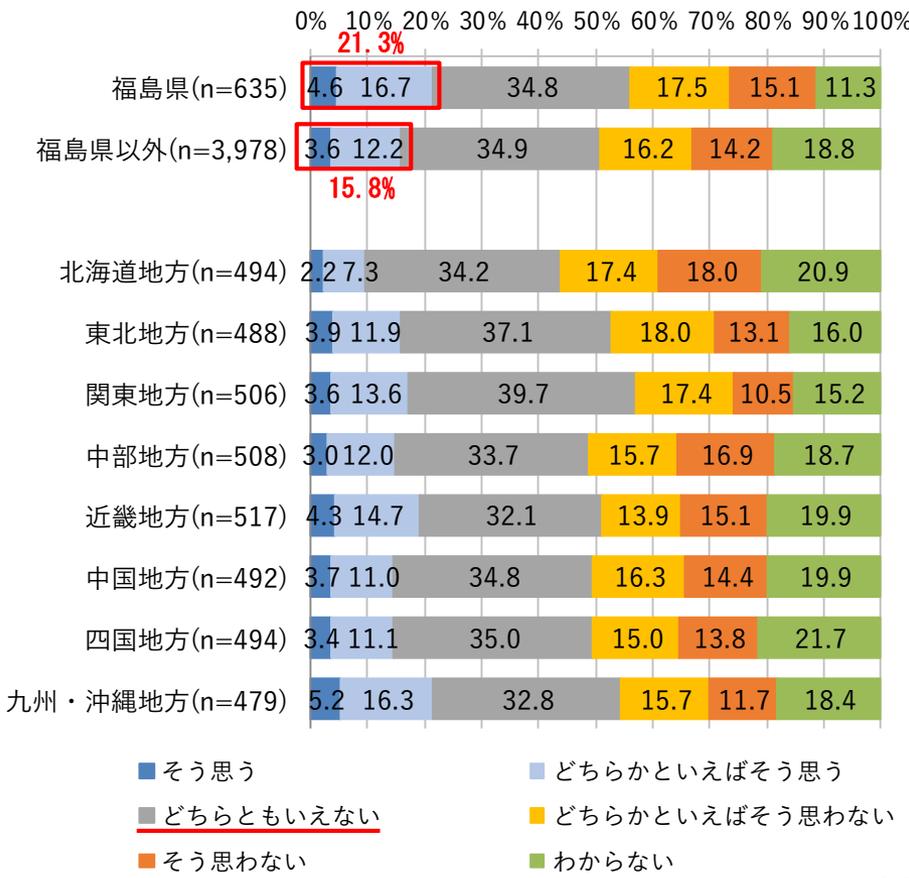
Q7：あなたは、除去土壌の再生利用は安全だと思いますか。

- 昨年度に比べ、福島県以外では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答が若干増加している。
- どの地域も、「どちらともいえない」「わからない」との回答が5割前後を占めている。

【令和2年度】



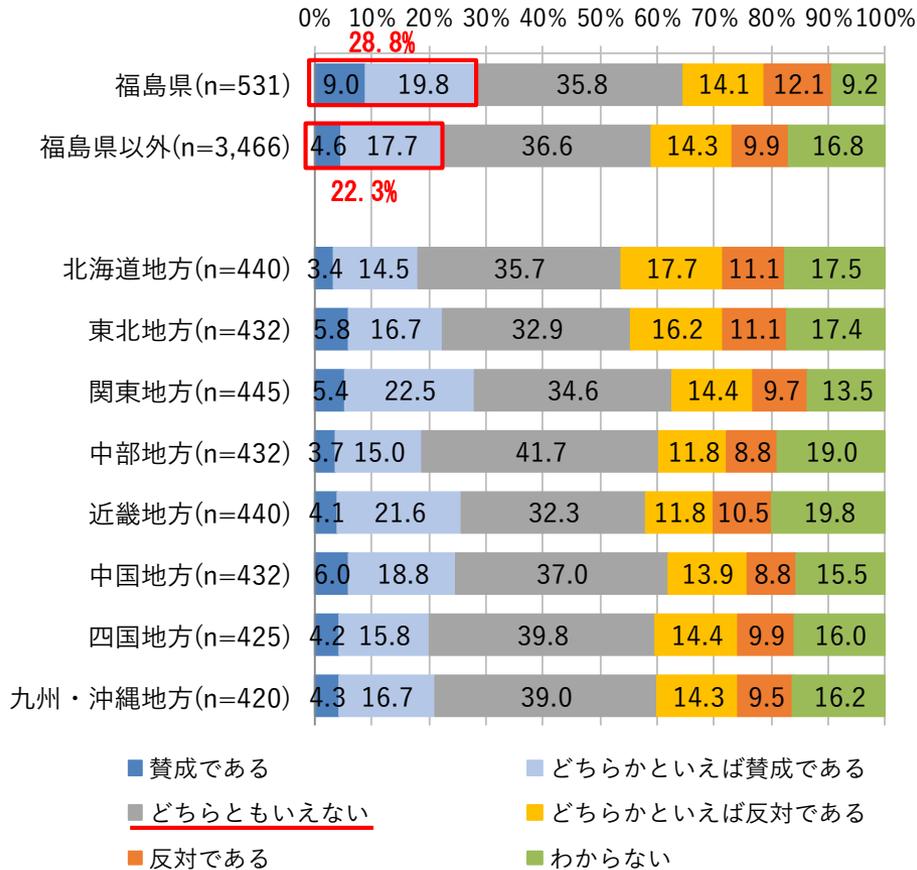
【令和3年度】



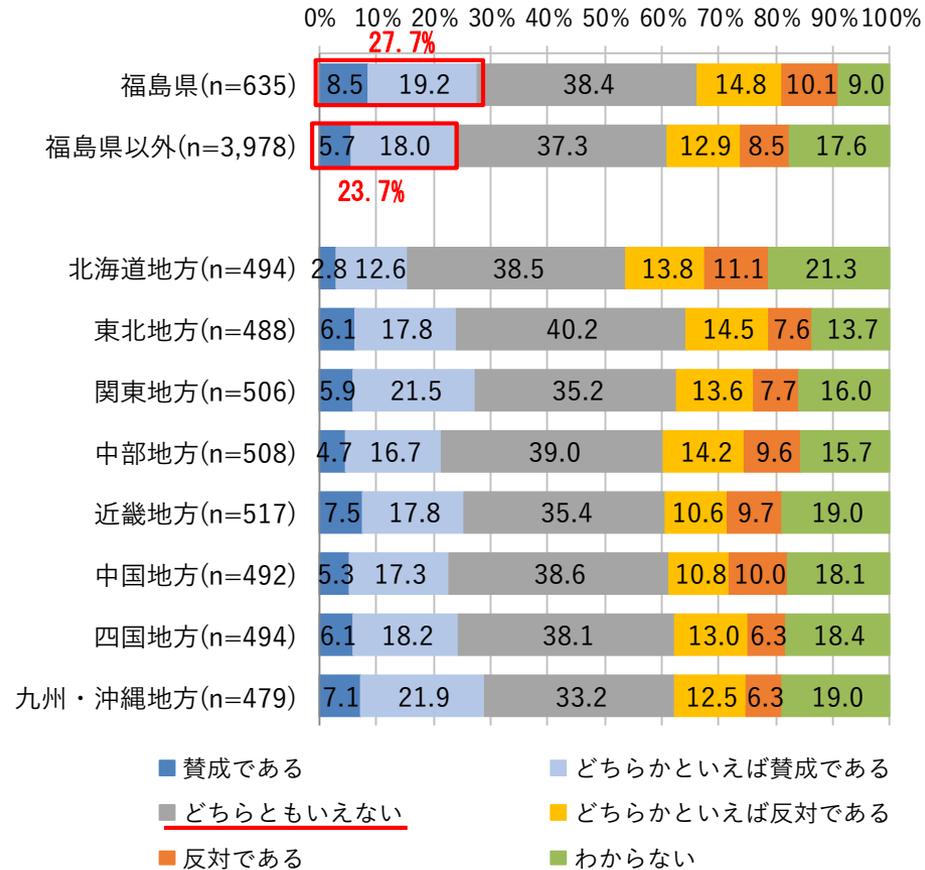
Q8：あなたは、除去土壌の再生利用を進めることに賛成ですか、それとも反対ですか。

- 概ね、昨年度と同様の傾向である。
- 「どちらともいえない」との回答が、全地域において40%前後である。

【令和2年度】



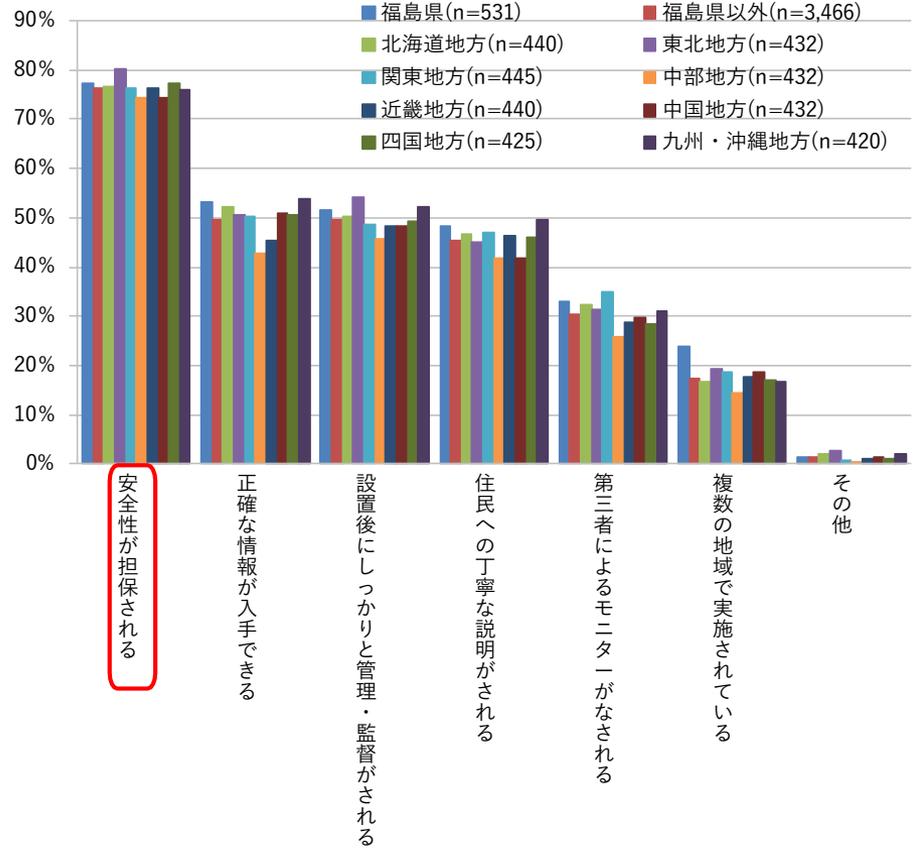
【令和3年度】



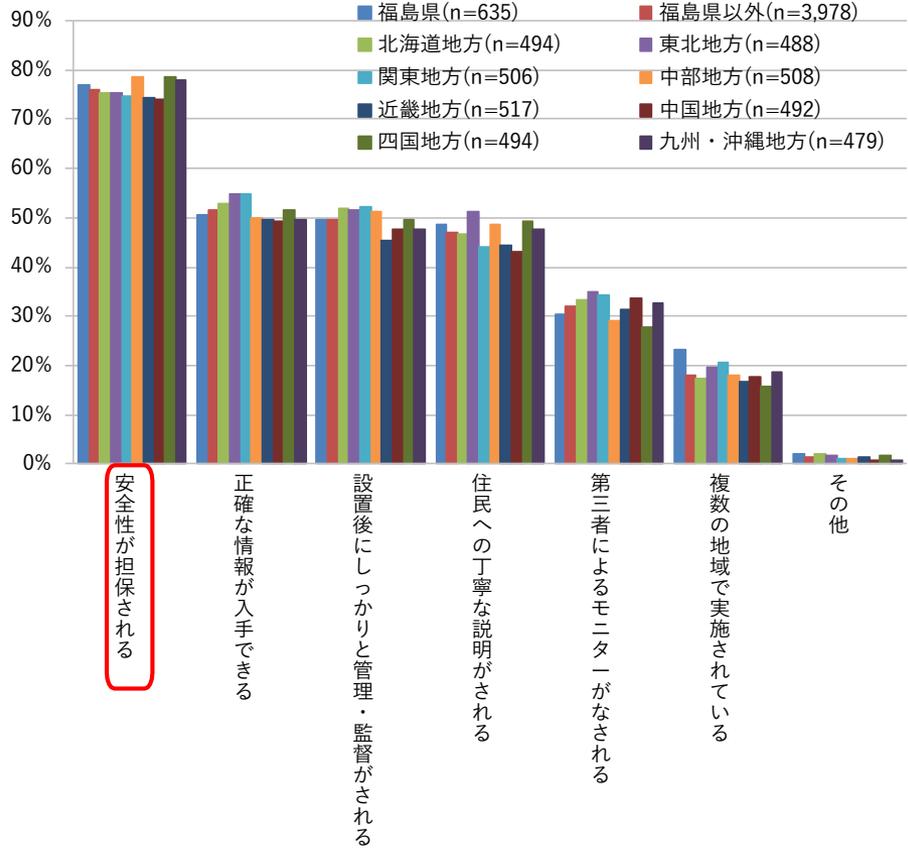
Q9 : 除去土壌の再生利用を進める上で どのような条件が整っている必要がありますか。(複数回答)

- 傾向としては昨年度と同様の傾向である。
- 全地域において、「安全性が担保される」の回答の割合が最も高い。

【令和2年度】



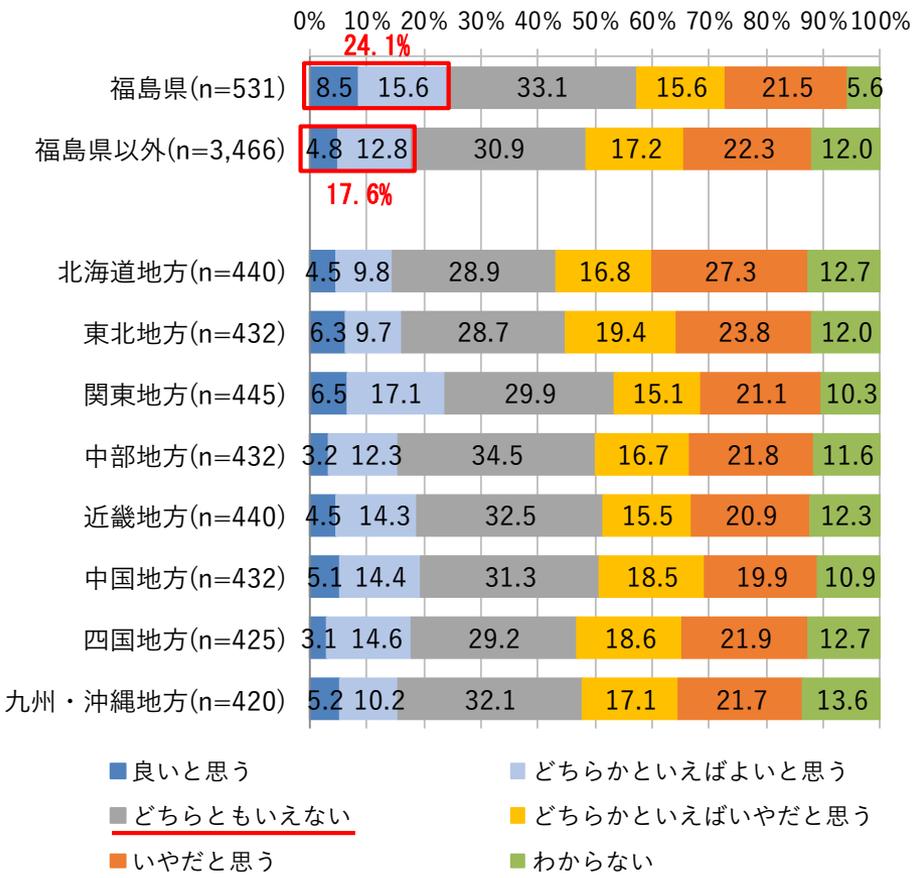
【令和3年度】



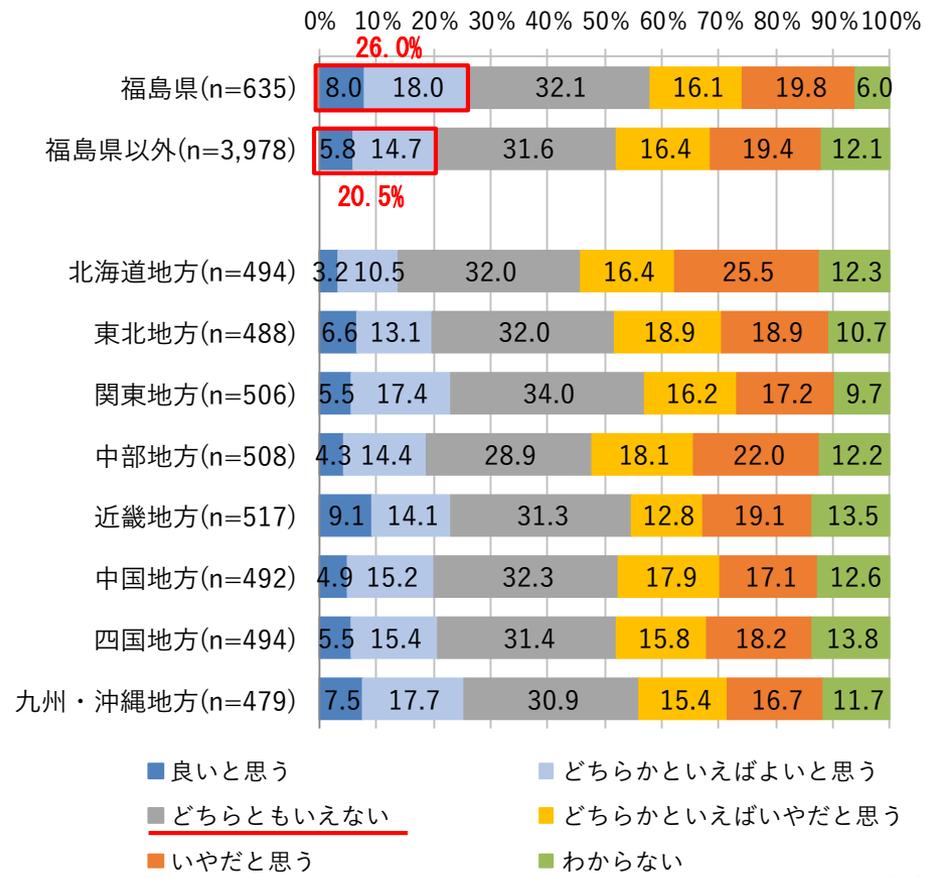
Q10：あなたは、自身のお住まいの地域で除去土壌の再生利用が実施されても良いと思いますか、それともいやだと思いますか。

- 福島県以外では、「良いと思う」「どちらかといえばよいと思う」との回答が昨年度より若干が多くなっている。
- 「どちらともいえない」との回答が、全地域において30%前後となっている。

【令和2年度】



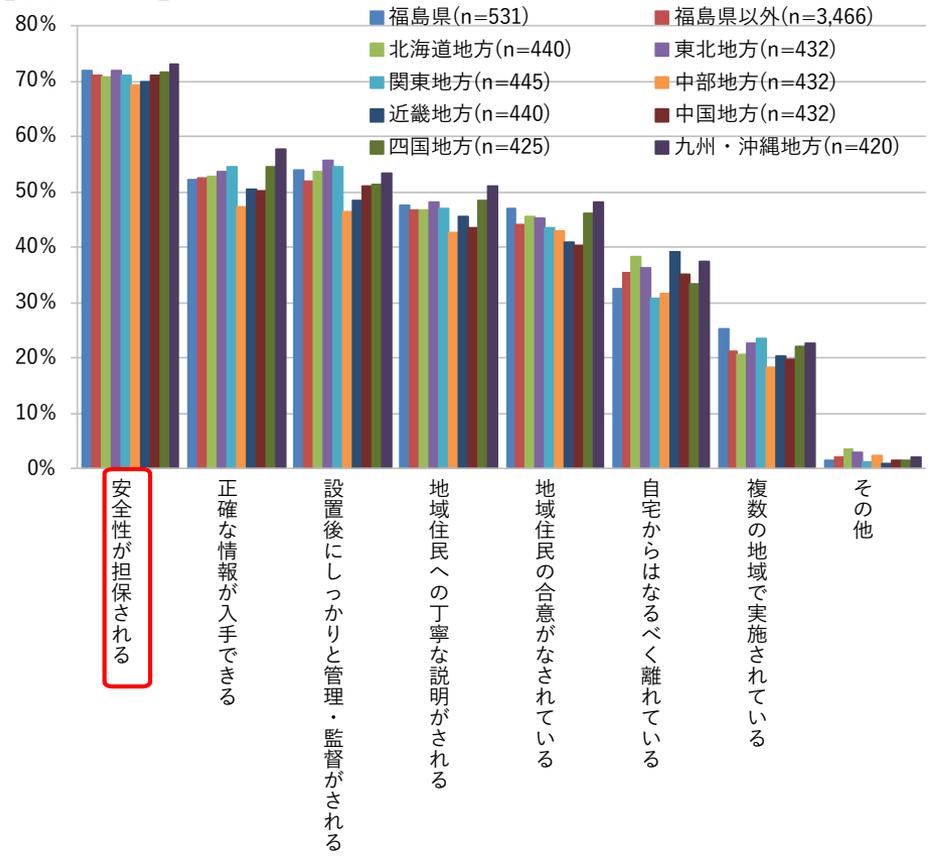
【令和3年度】



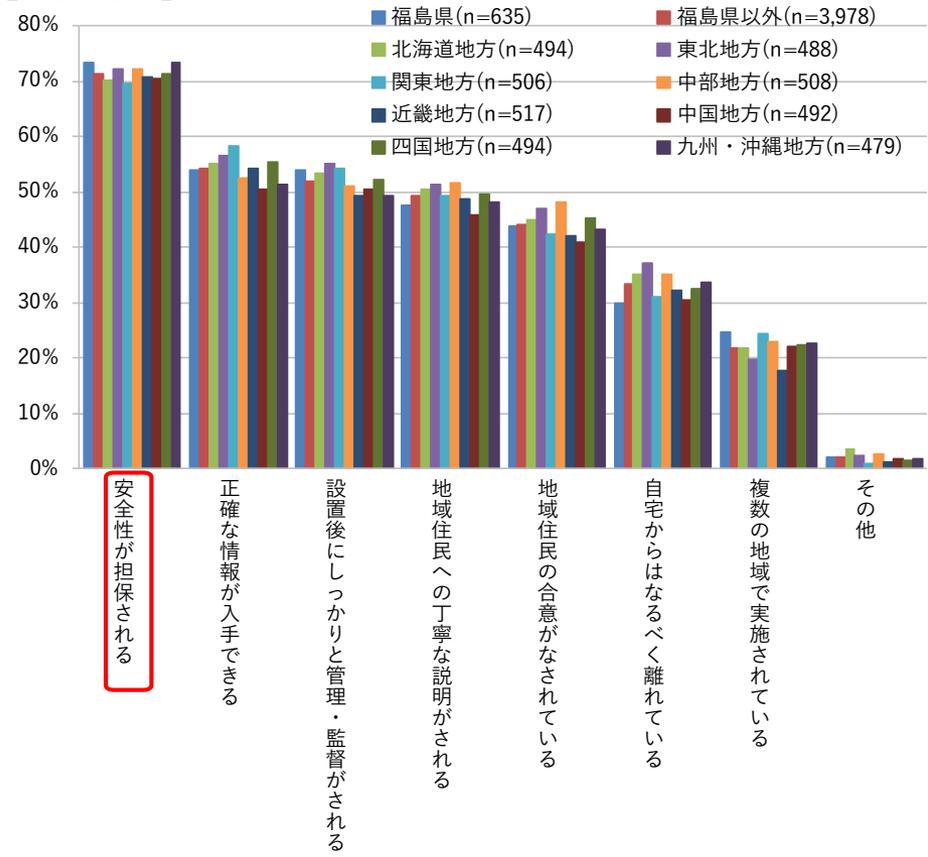
Q11：自身のお住いの地域で除去土壌の再生利用が実施される上で どのような条件が整っている必要があると思いますか。（複数回答）

- 傾向としては昨年度と同様である。
- 全地域において、「安全性が担保される」の回答の割合が最も高い。

【令和2年度】



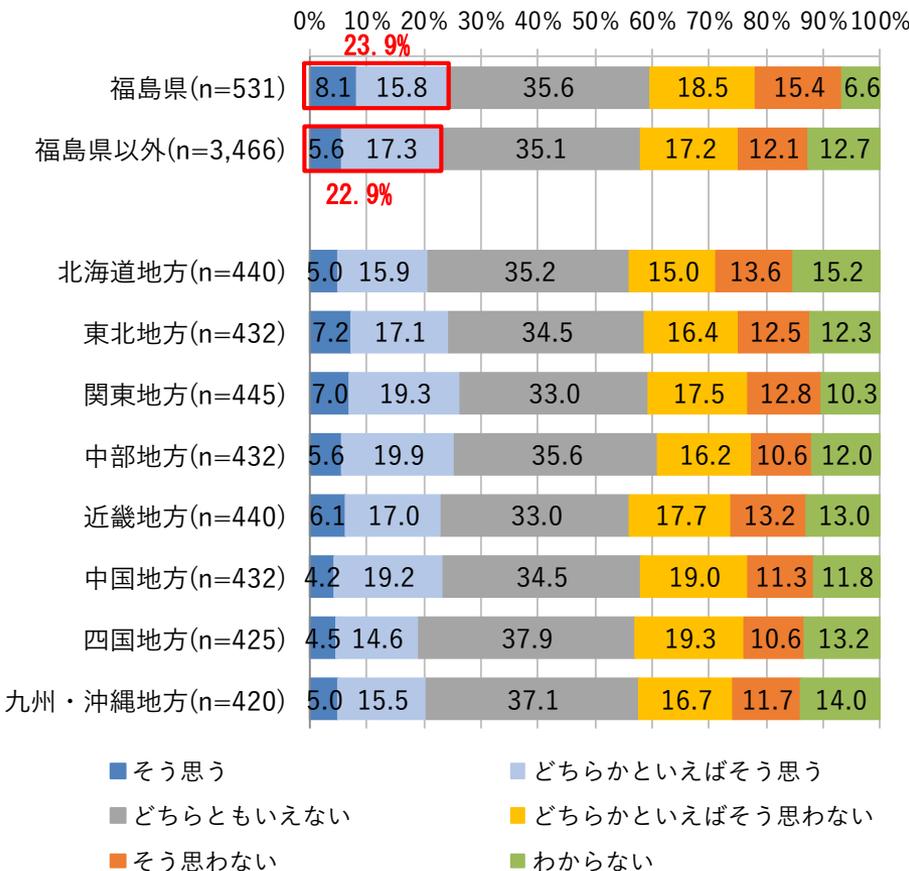
【令和3年度】



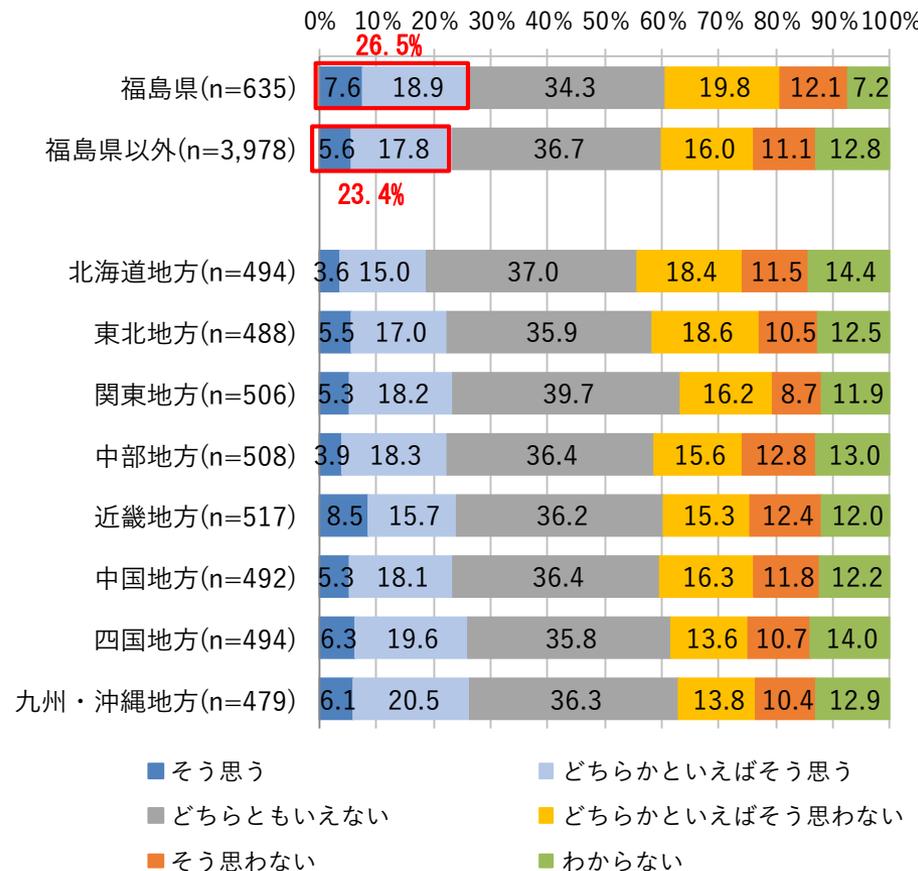
Q12：あなたは、除去土壌の再生利用を進めることについて社会的に理解を得ることは可能だと思いますか。

- 概ね昨年度と同様の傾向。
- どの地域も、「どちらともいえない」「わからない」との回答が4～5割前後を占めている。

【令和2年度】



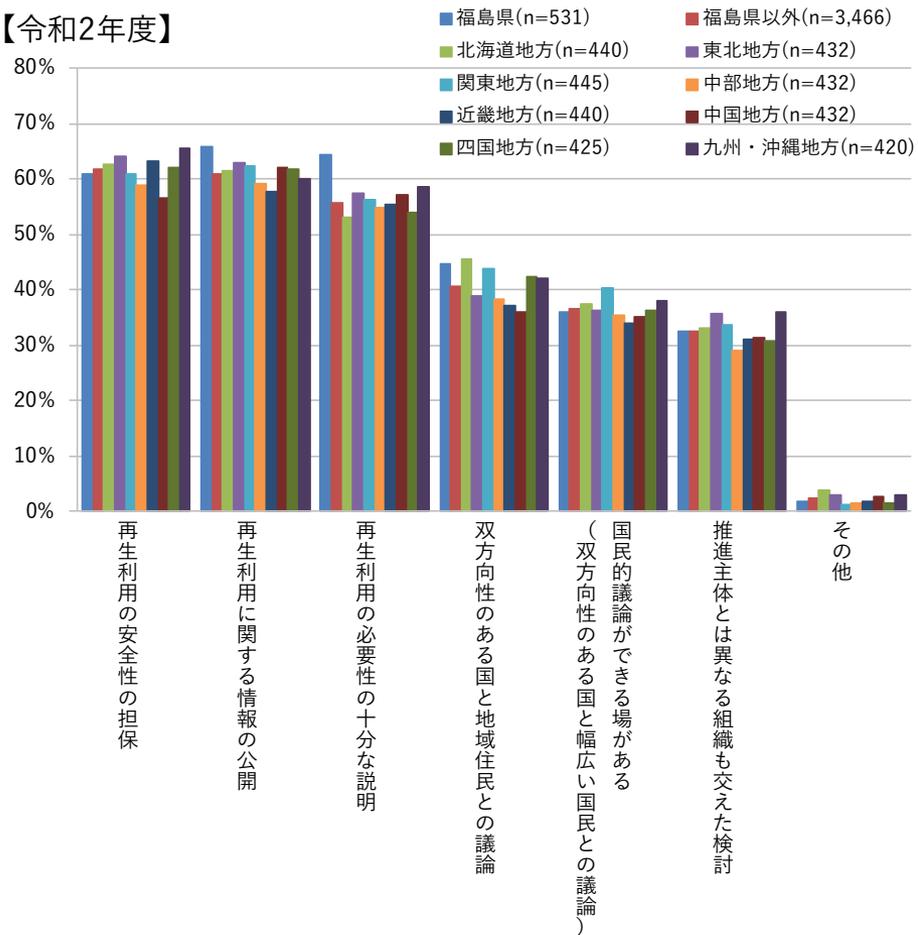
【令和3年度】



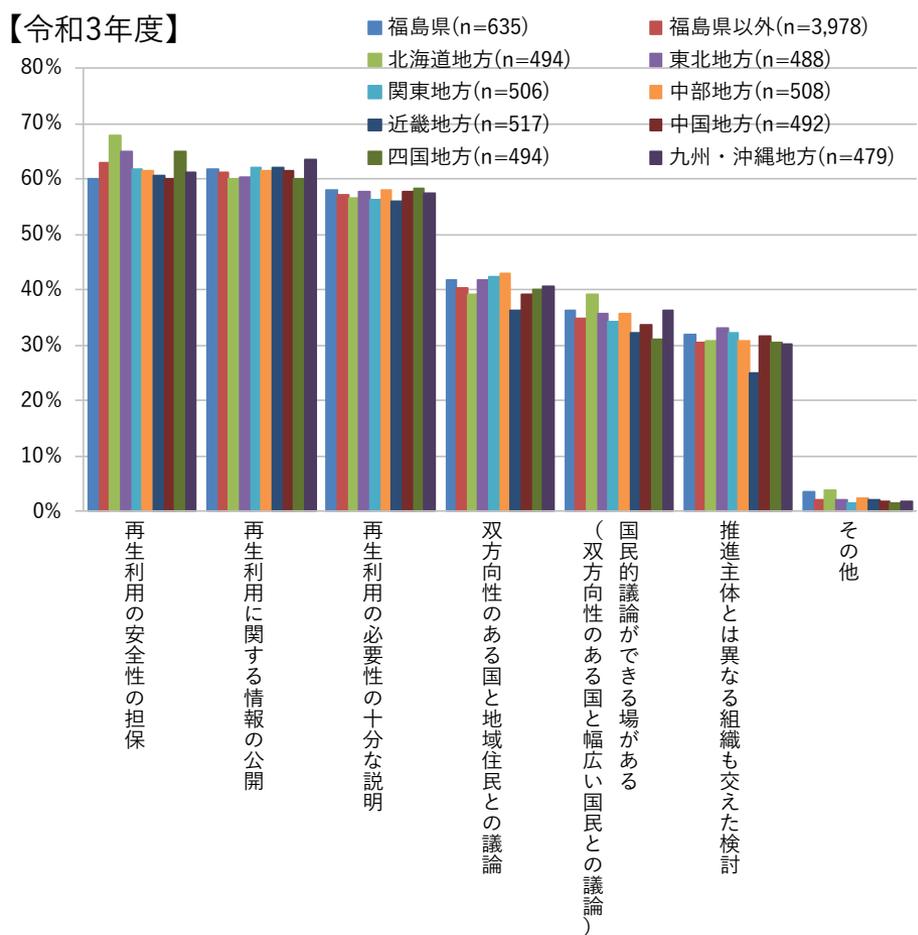
Q13：除去土壌の再生利用を進めることについて社会的に理解を得る上でどのような条件が整っている必要がありますか。（複数回答）

● 昨年度と同様に「再生利用の安全性の担保」、「再生利用に関する情報の公開」、「再生利用の必要性の十分な説明」が高くなっている。

【令和2年度】



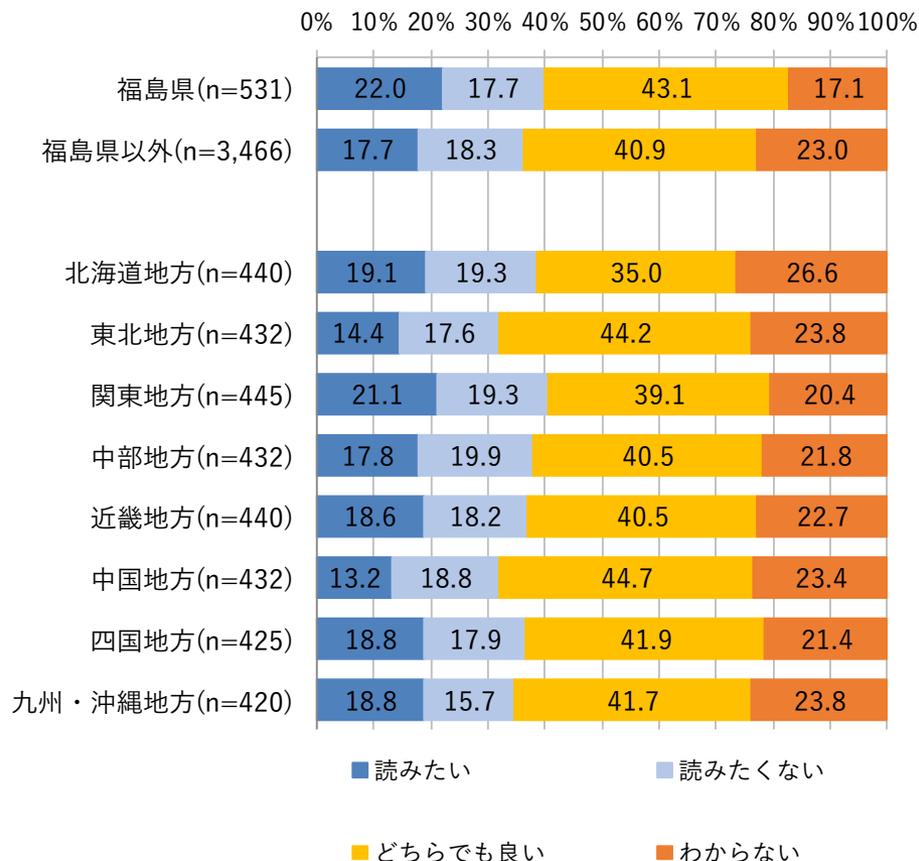
【令和3年度】



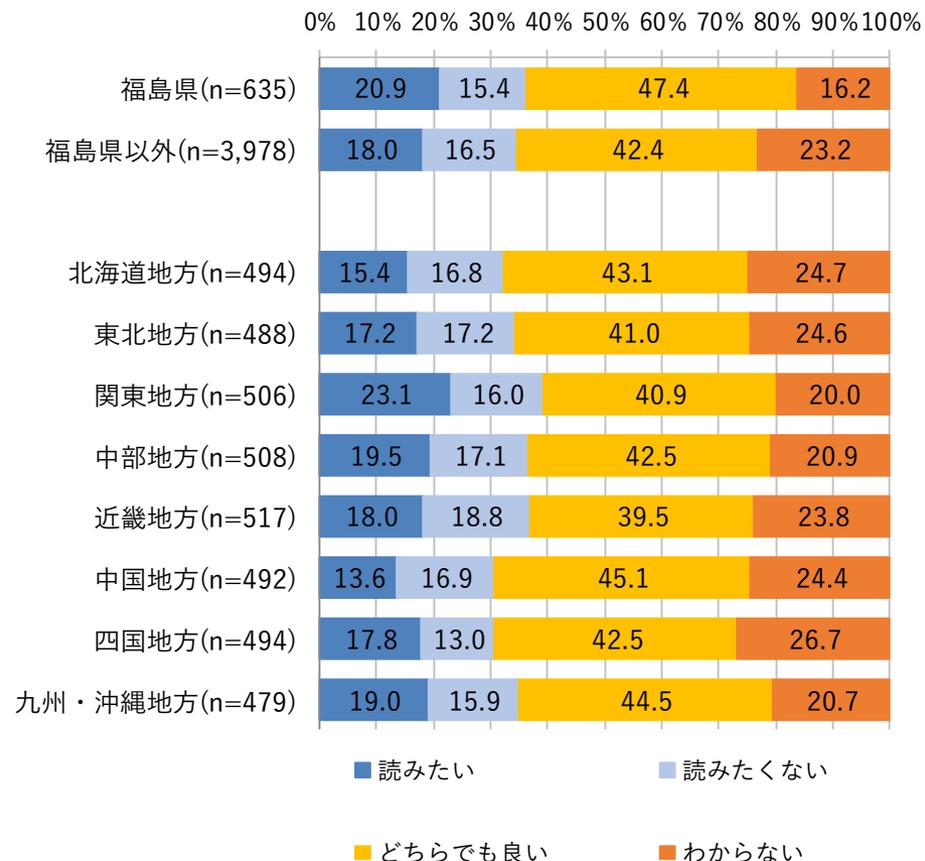
Q14：あなたは、環境省から除去土壌の再生利用に関するメールニュースやツイッター等SNSでの配信がされる場合、読みたいですか。

- 大きな地域差は見られず、「読みたい」との回答は、概ね20%前後である。

【令和2年度】



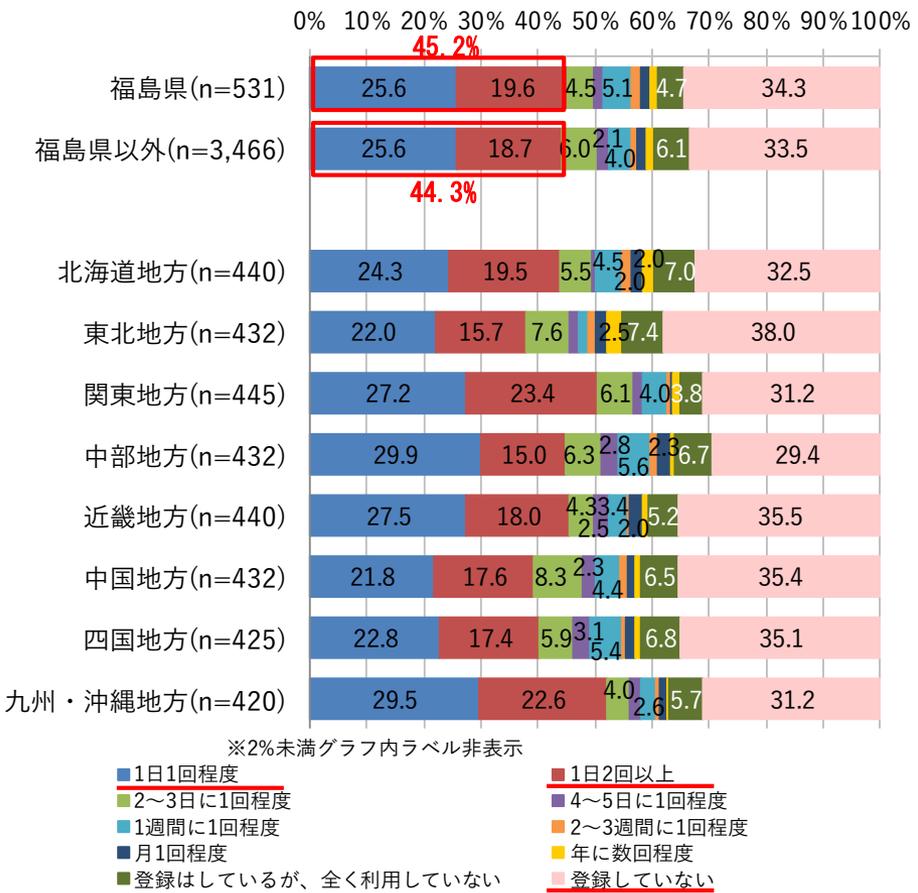
【令和3年度】



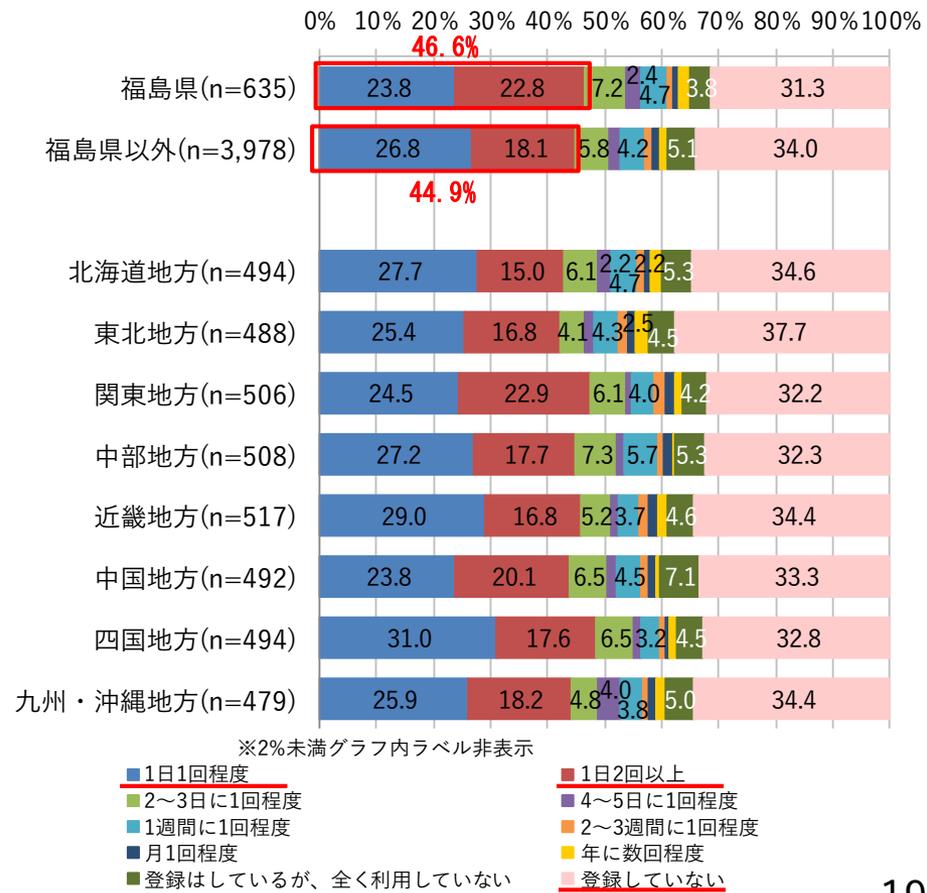
Q15：あなたは、どのくらいの頻度でSNSを利用していますか。

- 昨年度と同様の傾向にある。
- 全地域において、約40%の回答者が1日1回以上SNSを利用している。一方で、SNSに登録していない回答者は30%台である。

【令和2年度】



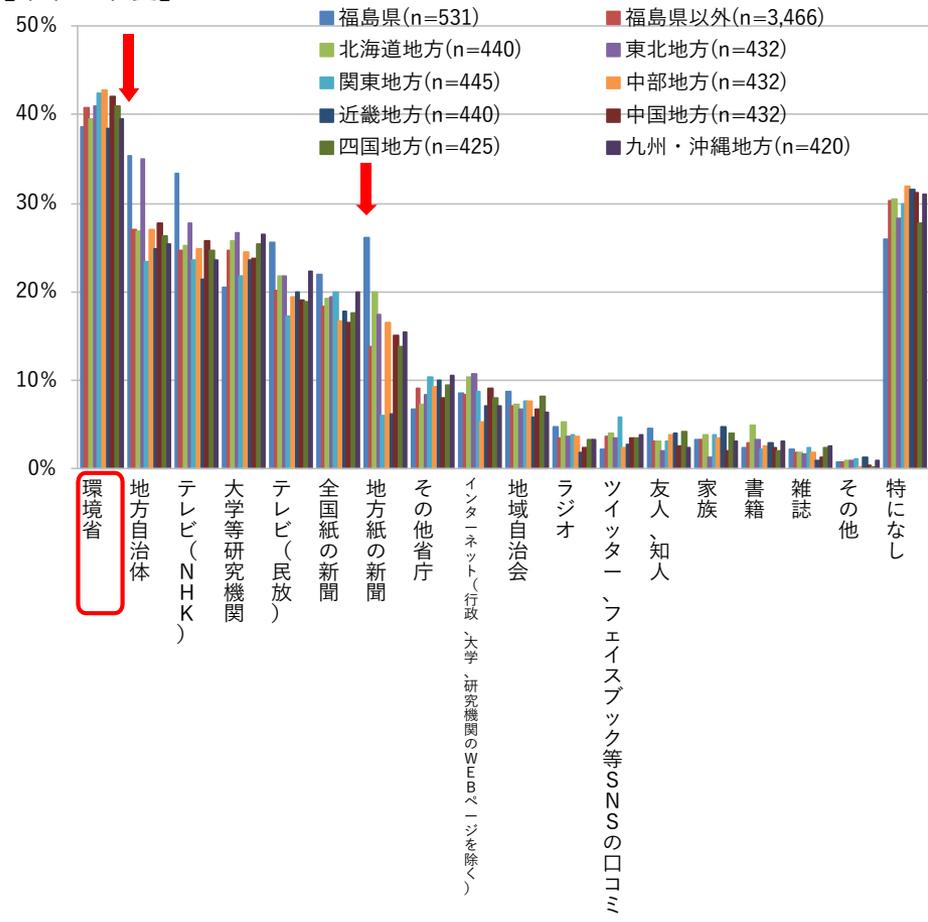
【令和3年度】



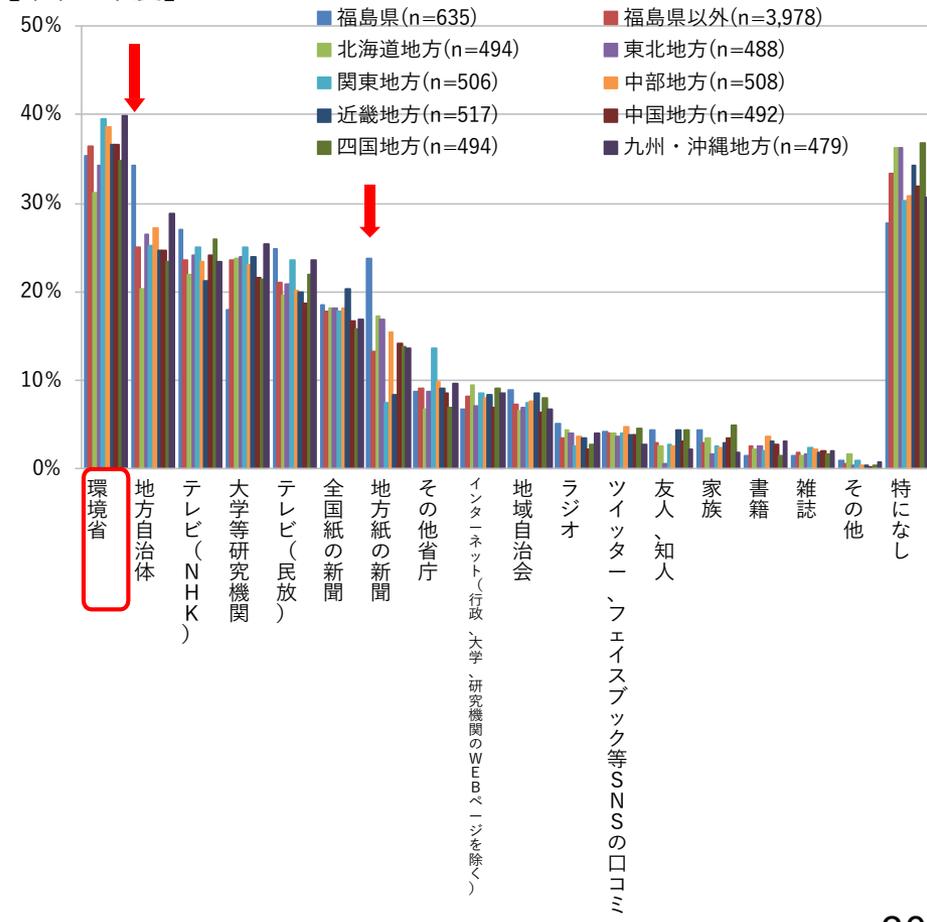
Q16：除去土壌の再生利用に関する情報の発信源として信頼できると考えられる機関・媒体をお答えください。（複数回答）

- 概ね昨年度同様の傾向である。
- 全国で「環境省」は信頼度が高い他、福島県では「地方自治体」が他の地域と比べて高い。さらに、福島県では「地方紙の新聞」も信頼度が高い傾向が見られる。

【令和2年度】



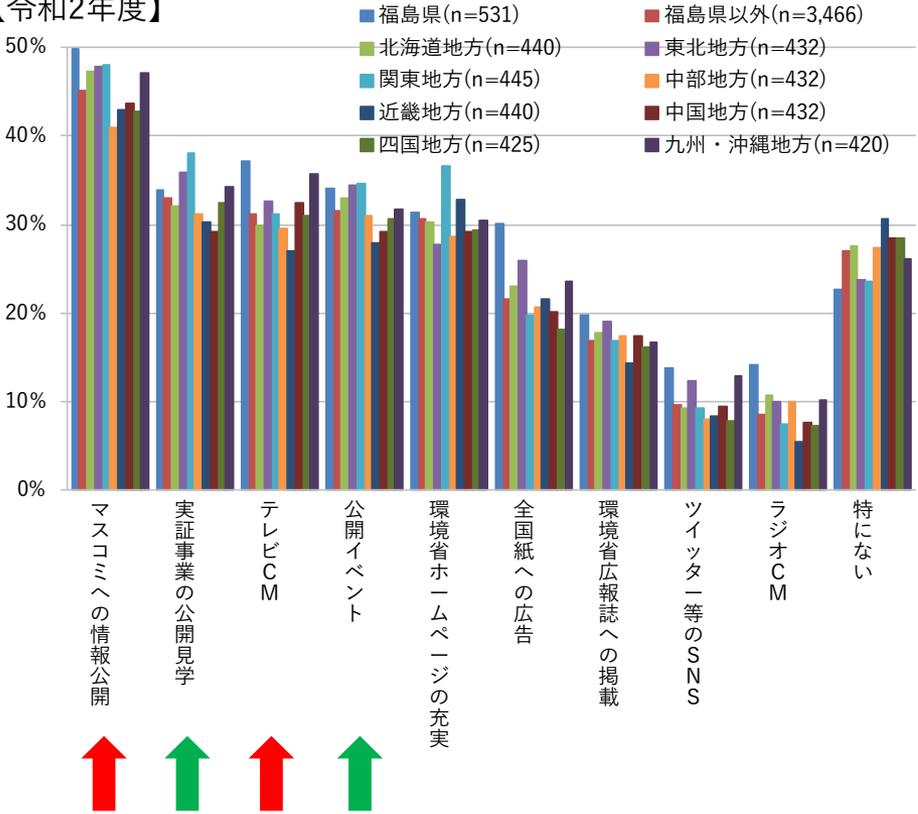
【令和3年度】



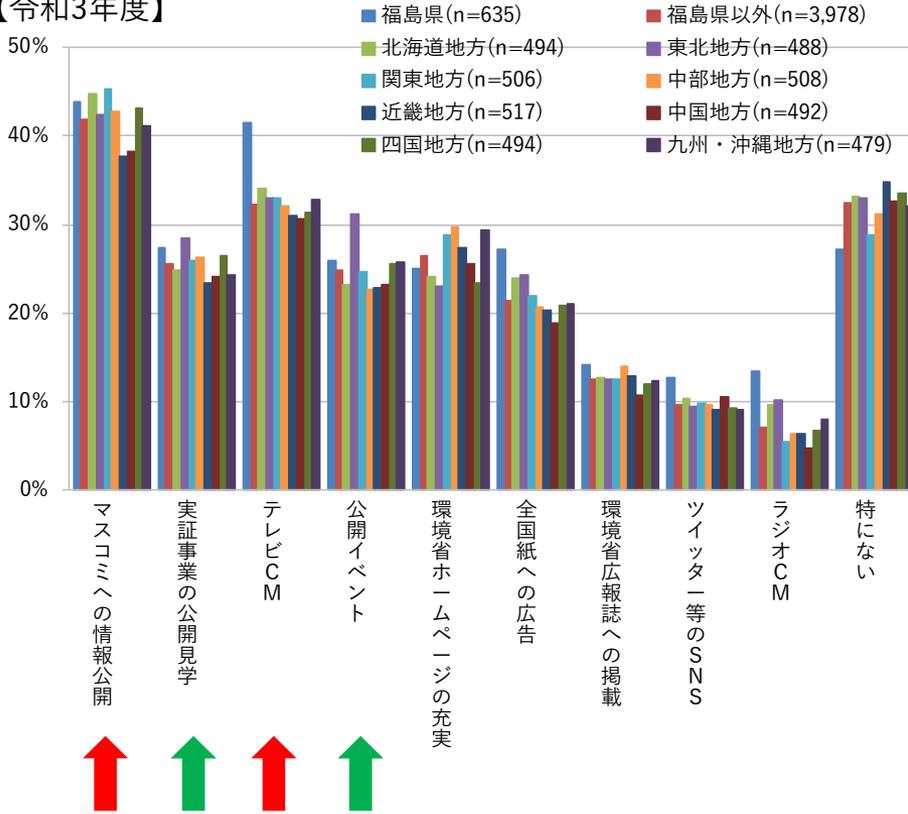
Q24：除去土壌の再生利用の理解を深めるために、環境省が実施すべきことは何だと思えますか。（複数回答）

● 全地域において、「マスコミへの情報公開」、「テレビCM」の回答の割合が高い。

【令和2年度】



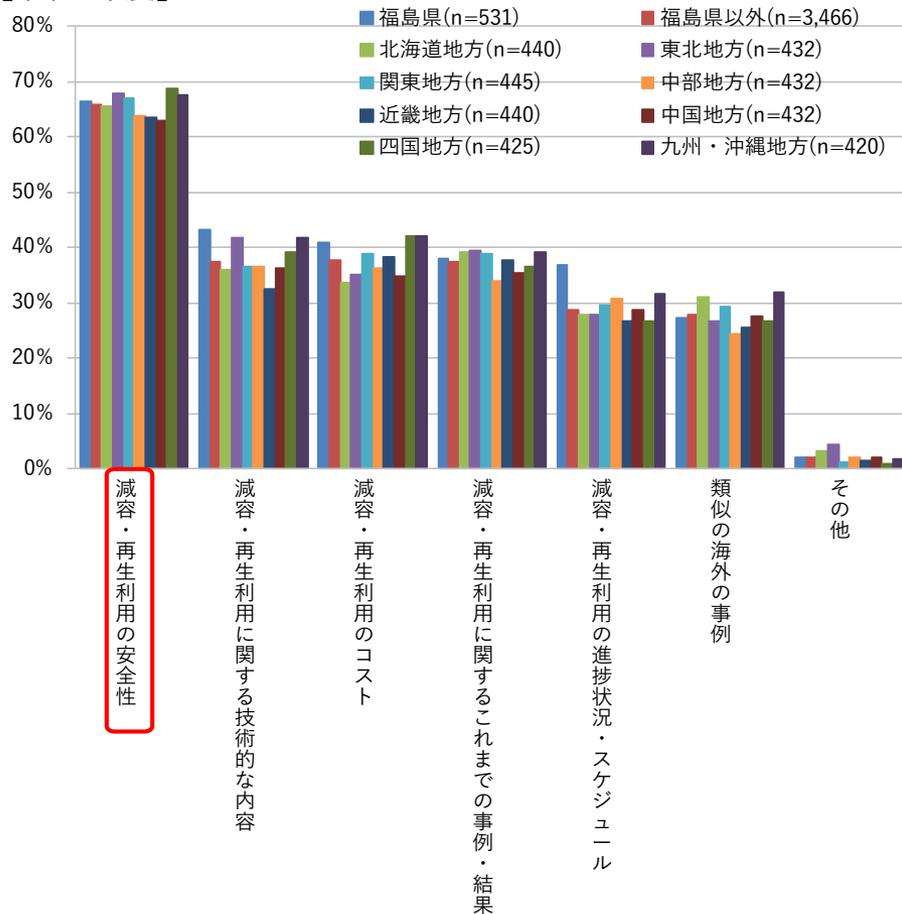
【令和3年度】



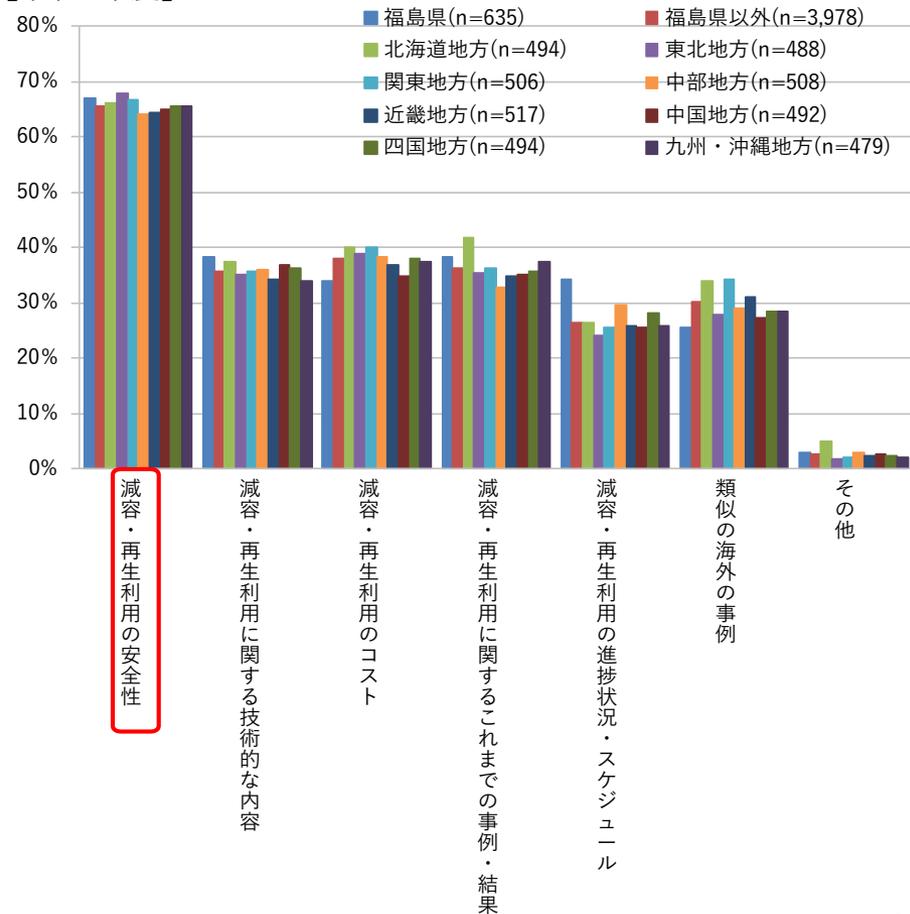
Q25：除去土壌の再生利用に関する以下の内容で 特に関心のある事項をお答えください。（複数回答）

● 昨年度と同様に「減容・再生利用の安全性」が関心が高い。

【令和2年度】

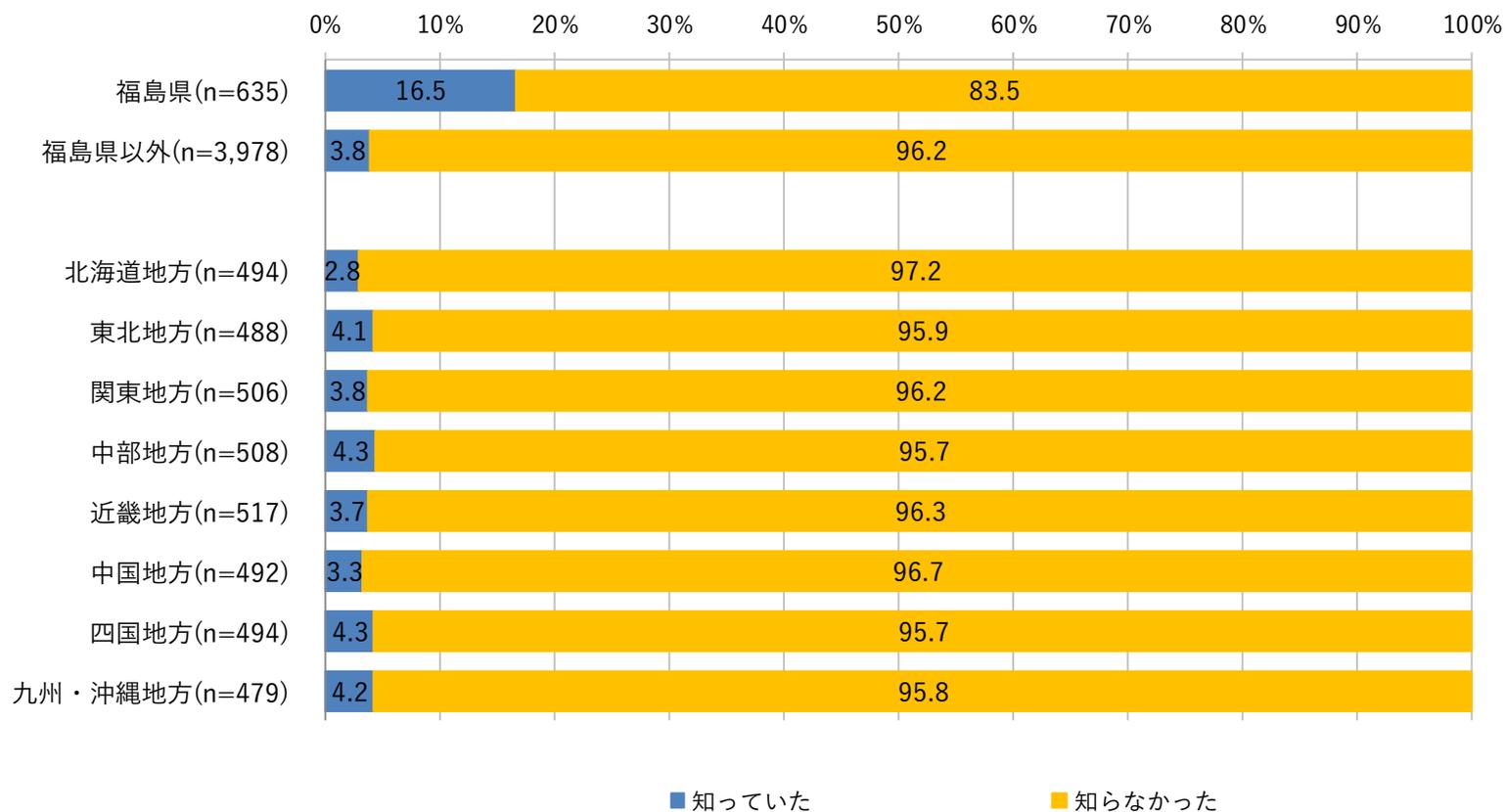


【令和3年度】



Q17（新規）：福島県飯舘村長泥地区では除去土壌再生利用の実証事業を行っています。
令和3年7月から一般の方々に対しての現地見学会を開始しました。
あなたは、このような見学会が開催されていることを知っていましたか。

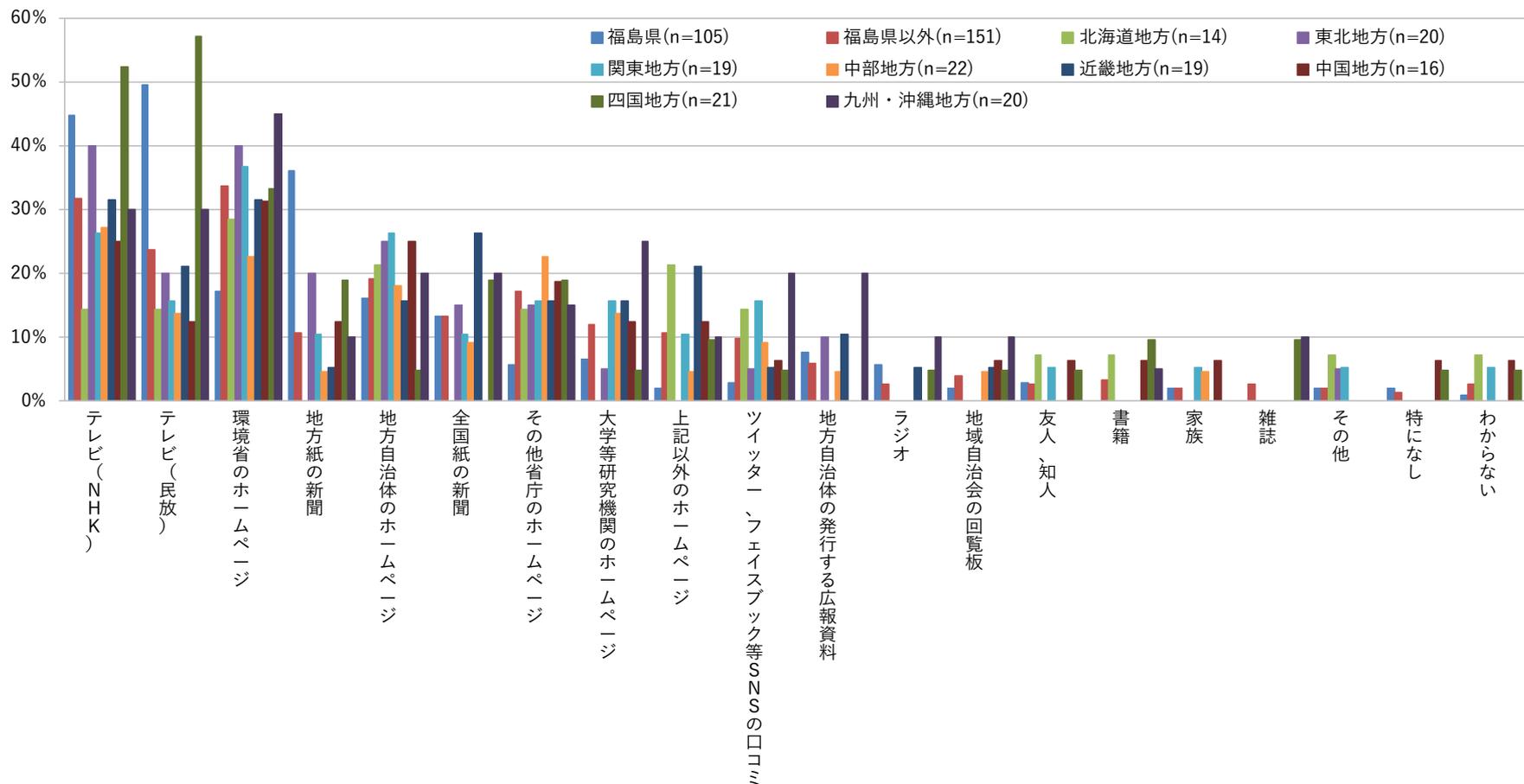
- 福島県では認知度が16.5%。それ以外の地域では2~4%台となっている。



Q18（新規）：Q17で「知っていた」と答えた方に質問です。

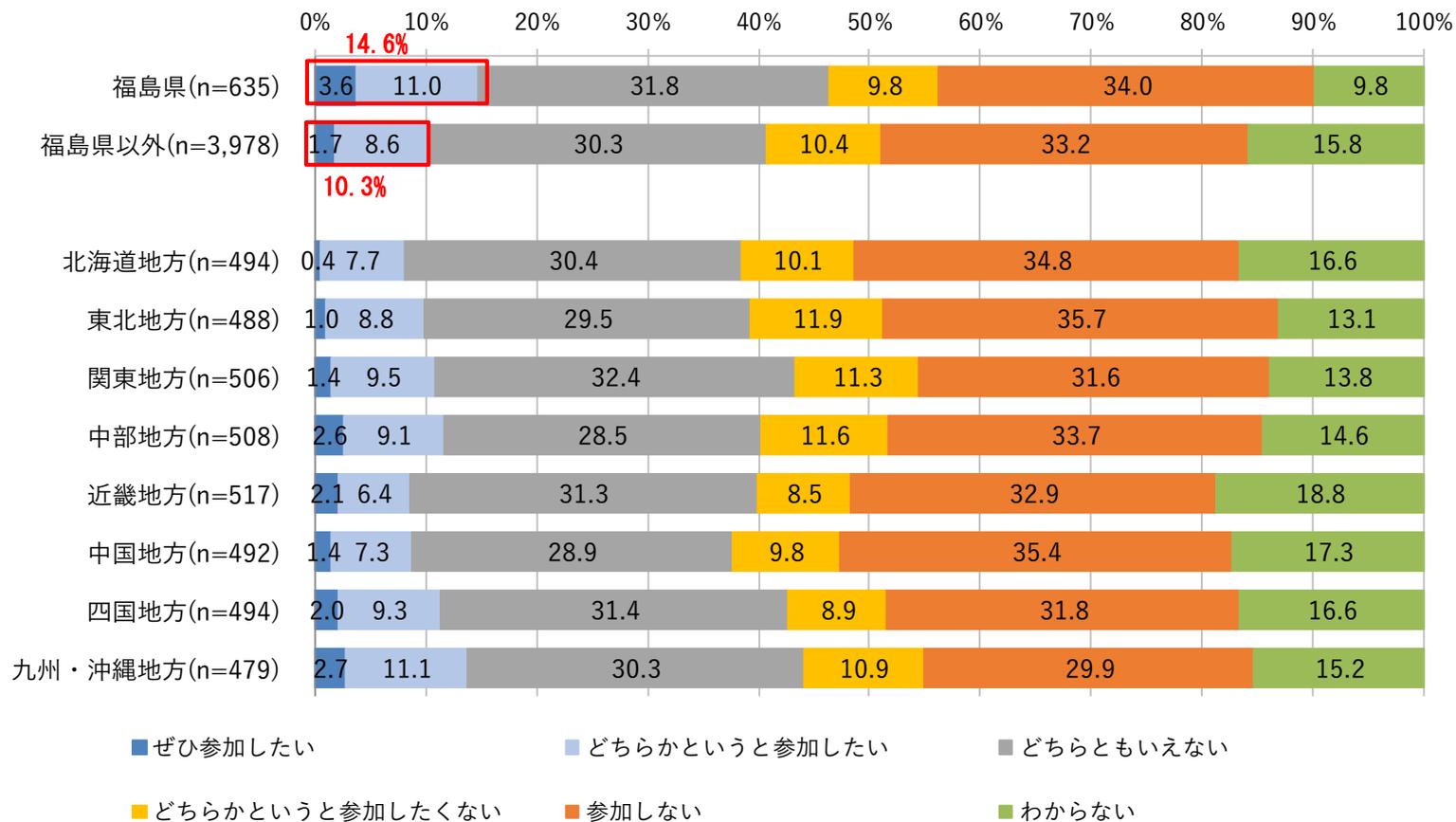
見学会の情報は何で得られましたか。（複数回答）

- テレビ（NHK）、環境省のホームページ、テレビ（民放）での情報入手が多くなっている。
- 福島県では地方紙の新聞との回答も比較的多かった。



Q19（新規）：今後現地見学会が開催された場合、参加したいと思いますか。

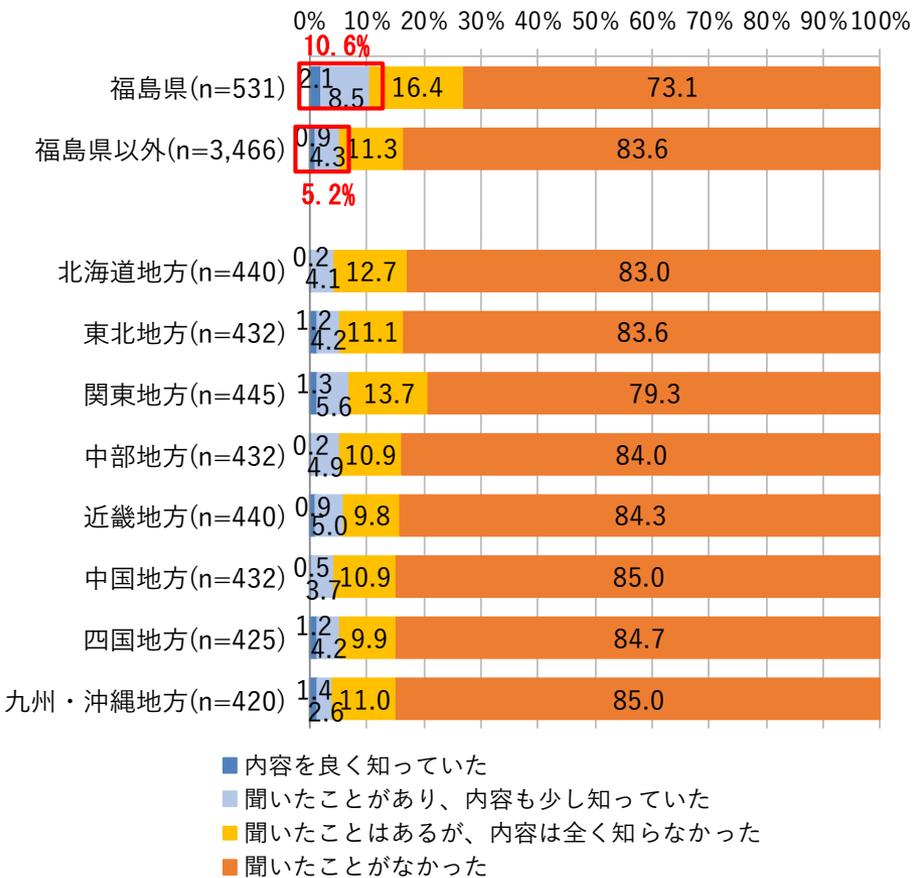
- どの地域でも「ぜひ参加したい」「どちらかというに参加したい」との意見は10%前後である。
- どの地域でも「どちらともいえない」は30%前後である。



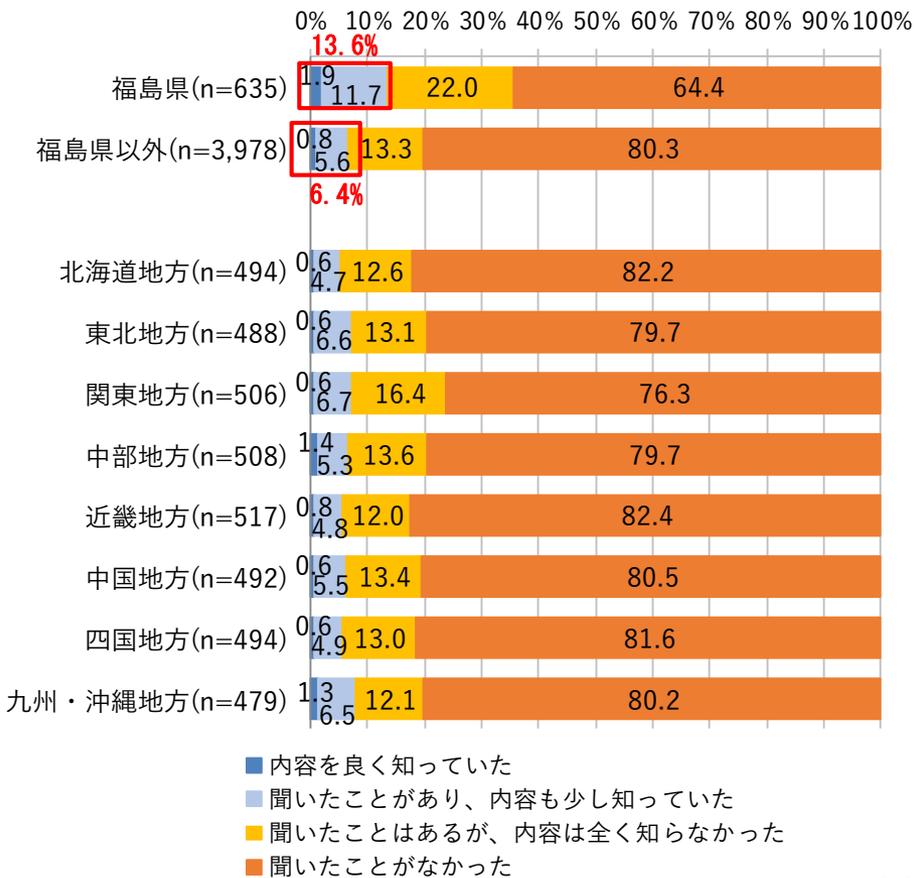
Q20：環境省では福島への復興に向けた理解醸成の取組の一つとして、中間貯蔵施設に搬入され分別した土壌を鉢植えに用い、観葉植物を植えて大臣室等に設置しています。2021年7月から首相官邸、復興庁、自民党及び公明党本部に、さらに2021年12月から環境省関連5施設（関東地方環境事務所、東北地方環境事務所、環境調査研修所、新宿御苑及び国立環境研究所）にも設置しました。あなたはこのことを知っていましたか。

- 令和2年度は2020年3月からの環境省本省の環境大臣室等の部屋に設置についての質問で同様の質問のため比較。
- 全地域において同様の傾向であり、「内容を良く知っていた」「聞いたことがあり、内容も少し知っていた」との回答は、数%～10%前後で昨年度と同程度である。

【令和2年度】

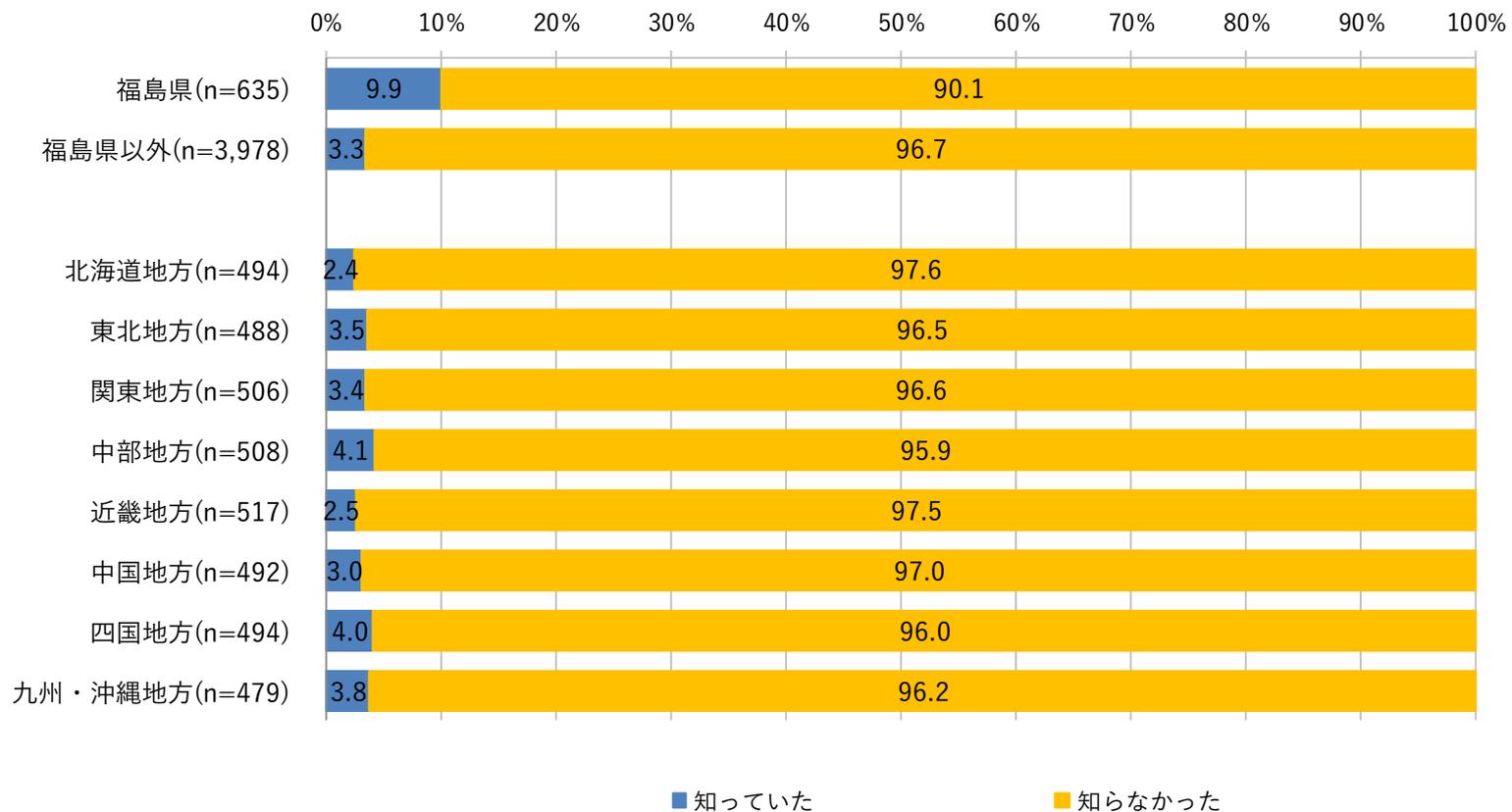


【令和3年度】



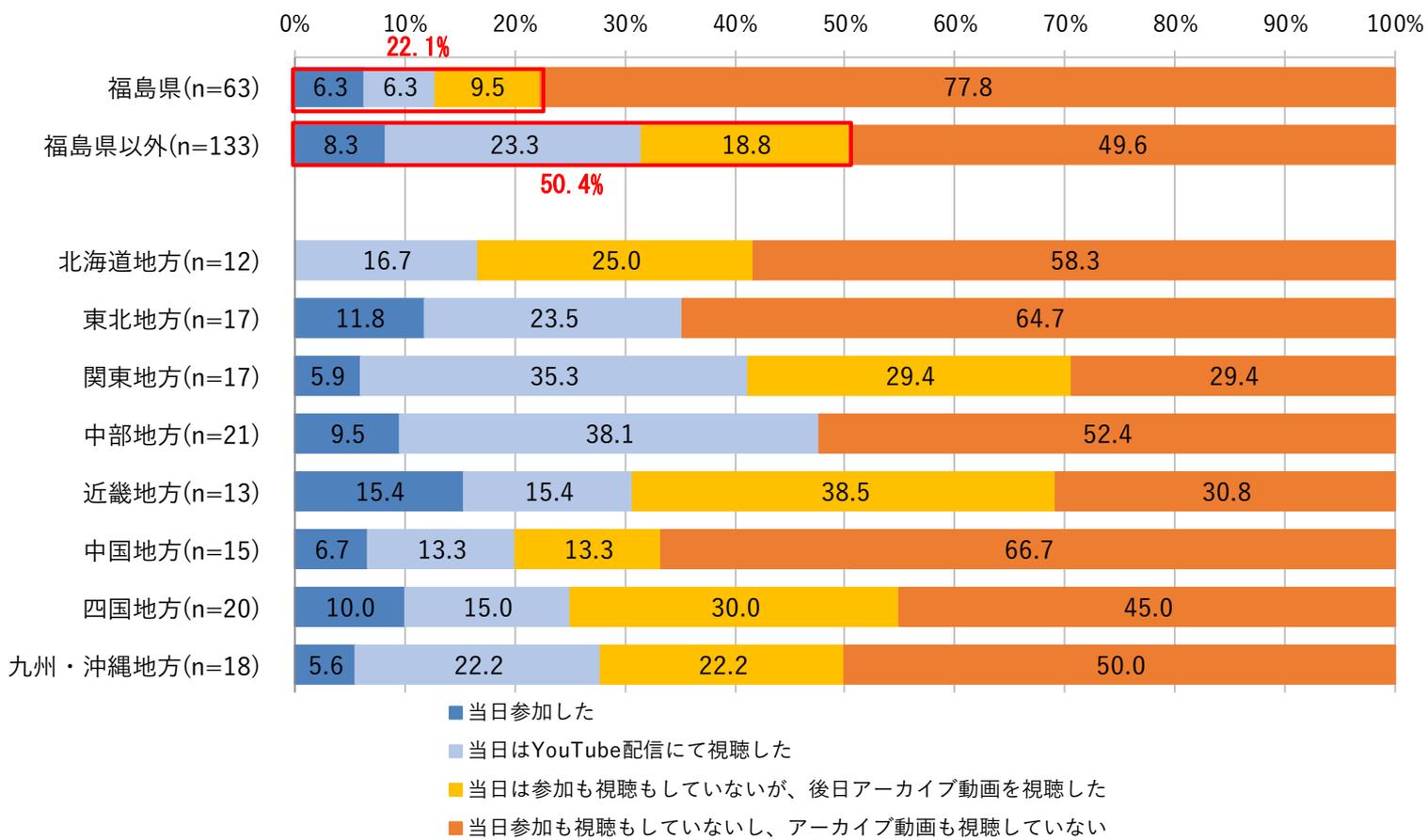
Q21（新規）：環境省は再生利用の理解醸成のため、『「福島、その先の環境へ」対話フォーラム』を令和3年5月23日から開始し、すでに3回開催しました。
あなたは、対話フォーラムが開催されたことを知っていましたか。

- 福島県では「知っていた」は約10%、それ以外の地域では2～4%台であった。



Q22 (新規) : Q21で「知っていた」と答えた方に質問です。あなたは、当日ご参加、もしくはYouTube配信にてご視聴されましたか。

● 対話フォーラムの開始をご存じの方のうち、当日参加、YouTube視聴、アーカイブ動画での視聴を合わせると福島県以外では50%程度の方が視聴されていた。



Q23（新規）：YouTubeでは『「福島、その先の環境へ」対話フォーラム』のアーカイブ動画を配信していますが、視聴したいと思いますか。

● 「ぜひ視聴したい」「どちらかといえば視聴したい」との回答は2割前後となっている。

